

〈平成23年度〉



第9回とリアート（鳥取県総合芸術文化祭）

評 価 報 告 書

鳥取県総合芸術文化祭評価委員会

はじめに

平成14年度に本県で開催された国民文化祭「夢フェスタとっとり2002」を契機として、翌年から、特色ある文化の振興を図ることを目的に、「鳥取県総合芸術文化祭」がスタートした。県民の主体的な文化活動を尊重しながら、定性目標や事業の委託制度、専門家や県民など内外による評価制度を設け、文化芸術の環境整備とレベルアップを図りつつ着実な歩みを続けてきた。

平成21年度、愛称を公募して「とりアート」と名づけた本年度の第9回は「飛躍期」の最終年（3年目）で、市町村や鳥取県文化団体連合会などの参加を得て、平成23年秋に多彩な事業が展開された。実施事業は、以下のとおりである。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| ・メイン事業 | 1事業 |
| ・キラリ☆アートプロジェクト | 2事業 |
| ・県主催事業 | 1事業 |
| ・県文化団体連合会主催事業 | 14事業 |
| ・ワークショップ・オープンスペースイベント | |
| 参加体験型事業（各地区イベント） | 127事業 |
| ・「とりアート」の基本方針に賛同した参加事業 | 149事業、計294事業であった。 |

特に注目されたのは、中部地区で開催されたメイン事業『八賢伝』であり、メイン事業のあり方が論議されて改善が図られ、2年かけて制作された。それが舞台でどんな成果を見せるか期待された。また、県民からの公募により選ばれた、地域で活動するアーティスト等による企画「キラリ☆アートプロジェクト」がどんなアートを創造するか。さらに、東・中・西部3地区がそれぞれ独自のコンセプトやテーマで開催する各地区イベントがどう展開されるか。

「とりアート」の事業は、文化芸術に関わる公共政策の一環として公的支援の対象になっており、納税者である県民に対して透明な運営を行うとともに、情報の公開と説明責任を果たさなければならない。

評価委員会は「鳥取県総合芸術文化祭評価委員会設置要綱」に基づいて組織され、「評価報告書」を作成・公表している。「評価報告書」ではその都度改善すべき点を提起してきたが、これまで実行委員会が真摯にかつ迅速に対応され取り組んできたことには敬意を表したい。

今回の評価も、事業改善のために討議がなされて活用され、県民のためにいっそう文化芸術のレベルアップが図られ、「とりアート」がさらに充実発展していくことを期待したい。

平成24年3月

鳥取県総合芸術文化祭評価委員会

座長 植田 丞

目 次

はじめに	・・・	1
I 総合評価	・・・	4
II 鳥取県総合芸術文化祭の実施概要		
1 第9回とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）の実施結果	・・・	11
2 評価の実施概要	・・・	14
III 自己評価	・・・	16
IV 観客・実施者アンケート		
1 観客アンケート	・・・	18
2 実施者アンケート	・・・	23
V 事業別評価		
1 メイン事業「八賢伝」	・・・	25
2 キラリ☆アートプロジェクト 鳥取 J A Z Z ～ジャズとつながる、ジャズでつながる～	・・・	27
3 キラリ☆アートプロジェクト 日野町民ミュージカル第10回記念公演 「きらりこの町」～遠いむかしむかし、僕たちの町おこし～	・・・	29
4 東部地区イベント 「因幡にぎや街道 2011 ～アートはじける、ハートつながる～」	・・・	31
5 中部地区イベント 「ええじゃないか！中部 ～未来を奏でる文化のまーち～」	・・・	33
6 西部地区イベント「いつもの『まち』で『文化』する！」	・・・	35
7 第55回鳥取県美術展覧会	・・・	37
8 とっとり県陶芸の集い	・・・	38
9 音楽日和 ライブフェスティバル鳥取 vol.13	・・・	39
10 第18回鳥取県シティバンドフェスティバル	・・・	41
11 第35回鳥取県川柳大会	・・・	42
12 鳥取県和太鼓連盟コンサート「和太鼓ふるさとの響 2011」	・・・	43
13 とりにん人形劇カーニバルイン イン よなご	・・・	44
14 第40回鳥取県短歌大会（第16回鳥取県民短歌賞）	・・・	45
15 2011 ヤングピアニストコンサート	・・・	46
16 「ダンスの日」記念ダンス交流会	・・・	47
17 三流合同謡曲仕舞大会	・・・	48
18 第9回鳥取県民謡まつり	・・・	49
19 第16回鳥取県俳句大会	・・・	50
20 オペラ「窓 ウィンドウズ」	・・・	51
21 県民による第九倉吉公演	・・・	52

VI 専門家評価	
1 メイン事業「八賢伝」	・・・ 53
2 キラリ☆アートプロジェクト 鳥取 J A Z Z ～ジャズとつながる、ジャズでつながる～	・・・ 58
3 キラリ☆アートプロジェクト 日野町民ミュージカル第10回記念公演 「きらりこの町」～遠いむかしむかし、僕たちの町おこし～	・・・ 62
○鳥取県総合芸術文化祭評価委員会 委員名簿	・・・ 64
○鳥取県総合芸術文化祭評価委員会 評価委員会の開催状況	・・・ 65
○鳥取県総合芸術文化祭評価委員会 設置要綱	・・・ 66

(別冊) 第9回とりアート (鳥取県総合芸術文化祭) 評価報告書《資料編》

I 総合評価

「第9回とりアート」は、期間を平成23年9月から12月とし、9月16日に開催された「とっとり県陶芸の集い」から12月25日の「県民による第九倉吉公演」まで県下各地で行われた。総合評価の項目は次のとおりである。

- 1 昨年度「第8回とりアート評価報告書」で指摘された事項に対する改善点
- 2 本年度「第9回とりアート」の評価方法
- 3 本年度「第9回とりアート」の総合評価
- 4 課題と今後の展望

主な事業の評価対象は次のとおりである。

▽メイン事業『八賢伝』

▽キラリ☆アートプロジェクト

- ・『鳥取JAZZ～ジャズとつながる、ジャズでつながる～』（以下、『鳥取JAZZ』と記す）
- ・日野町民ミュージカル第10回記念公演『きらりこの町～遠いむかしむかし、僕たちの町おこし～』（以下、『日野町民ミュージカル』と記す）

▽各地区ワークショップ・オープンスペースイベント

▽県主催事業 県展

▽県文化団体連合会主催事業

1 昨年度「第8回とりアート評価報告書」で指摘された課題と改善点

「とりアート」の基本方針は3ケ年を1期とし、12年間における文化祭のスパイラルを計画し、「創成期」、「成長期」を終え、本年度は「飛躍期」の最終年（3年目）であり、また今後の「とりアート」のあり方を示す「とりアート構想」が策定されたこともあり、大きな区切りを迎えた。過去8年間を踏まえて指摘された課題を要約すれば次のとおりである。

- ・「飛躍期」に入って事業の質はレベルアップしたか。
- ・県民の自主的な芸術文化活動は尊重されているか。
- ・指導者養成を含め、各種の環境整備は進んでいるか。
- ・「とりアート」の開催方法と時期の見直しは検討されているか。
- ・アートマネジメント力の育成と醸成は進んでいるか。

<メイン事業の隔年実施>

上記の諸課題はいずれも短期間で達成するのは難しく、年毎に事業を検証・検討して改善を図りながら追求していくべき課題である。評価委員会は「第5回総合芸術文化祭評価報告書」でメイン事業のあり方について触れて以来、第6回、第7回でも問題点・課題を指摘してきた経緯があるが、隔年実施となって準備期間に余裕ができて練り上げる時間が生まれたことは改善点としてすでに昨年度評価した。

<アートマネジメント力の育成>

公募で選ばれた地域で活動するアーティスト等による「キラリ☆アートプロジェクト」の2事業はともに定性目標・戦略をほぼ達成し、観客の満足度も高く、一定のレベルは担保することができた。2事業のアートマネジメント力は成果を上げ、十分ではないが人材が育ちつつあると評価できる。

2 「第9回とりアート」の評価方法

<飛躍期の定性目標>

「とりアート」飛躍期の評価は、基本方針に定める次の「定性目標」のもとに行われる。

- ① 鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します。

- ② 県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します。
- ③ 市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります。
- ④ 教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します。

<具体的な評価方法>

定性目標を達成するには、企画—実施—評価—改善が行われなければならない。評価によって、公的資金を活用した「とりアート」の意義を明らかにし、レベルの高い作品を提供し、成果と課題を明らかにすることが求められる。実行委員会と評価委員会の意見交換は評価報告会として実施することとした。評価には一定期間の同一データが必要なため、従来の方法を踏襲し、今回は系統的データを求め、従来どおりの次の構成とする。

- ① 実行委員会など実施者自らによる第1次の自己評価。
- ② 評価委員実地検証レポート・専門家評価・観客アンケートによる第2次の外部評価。これらのデータを事務局がまとめたのち、次の作業が行われる。
- ③ 評価委員会で総合評価及び事業別評価を行い、報告書を作成し、事業実施者に対する評価報告会を開催する。
- ④ ホームページなどで報告書を公開し、多様な議論を喚起して改善・レベルアップを図る。

評価委員会は基本方針による定性目標や戦略に基づき、事業毎に複数の委員が担当してレポートを作成。それに観客のアンケートや専門家の評価も参考にし、多角的に「とりアート」をとらえて評価すべく努力した。文化芸術の評価には絶対的な基準がなく、公正を期しても主観はつきものである。評価委員会では、“総合芸術文化祭”と銘打って公的資金を活用して行われる「とりアート」の質にまで及んで論議がたたかわされ、多角的な視点でとらえるべく努力し、最終的に一本化した。評価制度による毎年の評価の蓄積が「とりアート」のレベルアップに資することができれば幸いである。

3 「第9回とりアート」の総合評価

第9回「とりアート」の総額予算は5,130万円（昨年度3,801万円）。総事業数294（昨年度289、以下同）、主催事業145（136）、参加事業数149（153）。参加人数は、40,002人（30,207人）。事業数や規模が違う（このこと自体「とりアート」が充実・発展してきたことの証左）ので単純に比較はできないが、メイン事業が実施されなかった第8回を除いて参加人数は増加しており、関係者の努力を評価したい。

[参加者数等の推移]

回数（年度）	予算（万円）	事業数	参加人数（人）	前年比（人）
第5回（平成19年度）	5,457	244	23,886	—
第6回（平成20年度）	5,495	242	31,566	+7,680
第7回（平成21年度）	5,030	238	39,718	+8,152
第8回（平成22年度）	3,801	289	30,207	▲9,511
第9回（平成23年度）	5,130	294	40,002	+9,795

「とりアート」への参加者は増加しており、県民の「とりアート」の認知度も前回に比べると観客アンケートで10%近く増加（「以前から知っていた」が54.2%）したとはいえ、まだ十分に県民に認知されているとはいえない。昨年度も指摘したが、広報活動を粘り強く続けていくとともに、何よりも多くの人を惹きつける魅力ある企画・事業を追求していかなければならない。

<広報実績>

広報実績は、以下のとおり。

県民への情報発信の総計は264（162）件で、件数は昨年度より増加している。情報発信は多彩に行われていて足を使った活動もなされていて、実行委員がツイッターなど新しい広報にも挑戦して意欲的だが、「まだまだ県民の文化への関心呼び起こすというレベルにまでは至っていない」という率直な反省（実行委員の「自己評価シート」）も見られる。「いつがあるのか会場に行かないとわからない」「看板等がなく、近くにいかないと何をしているか解らなかった」という観客の声（「観客アンケート」の感想）もあり、事業が多彩なだけに何を、いつ、どう効果的にPRして知ってもらうか、工夫を凝らす必要がある。

[広報実績]

広報媒体	件数(昨年度)	広報媒体	件数(昨年度)
新聞掲載	85（29）	FM（コミュニティ含む）	6（11）
各イベントでのチラシ配布	32（31）	ポスターの作成	6（3）
イベント開催、催事でのPR	25（7）	展示によるPR	5（6）
インターネットによる告知	23（8）	県広報課による広報（県政だより等）	5（2）
市町村広報紙掲載	17（13）	文化振興財団情報誌アルテ掲載	4（4）
マスコミへの資料提供	14（17）	メールマガジンによる配信	1（4）
テレビ放送	14（11）	AMラジオ放送	1（1）
看板等の設置	10（12）	専門誌	1（0）
その他情報誌への掲載	8（2）	ガイドブックの発行	0（1）
講演会の開催等	7（0）	合計	264（162）

<観客アンケート>

実行委員会主催事業の観客アンケートの回収率は10.6%（前回11.2%）で今回の目標（28.7%）を大きく下回ってダウン傾向が続いている。会場の関係での回収のしにくさという条件はあるにせよ、各地区ワークショップ・オープンスペースイベントでの回収率は東部は22.9%だが、中部は3.7%、西部は6.8%と今回も低い。ただ、観客数は東部が4,854人（昨年度3,706人）、中部8,679人（4,647人）、西部7,410人（4,707人）と増加していて、それは成果として評価したい。それだけに、今回もまたアンケート回収率を高める工夫・努力を課題として望みたい。

アンケートの内容だが、「とりアート」を「鑑賞（参加）したことがある」が58.9%（前回56.3%）、「初めて鑑賞（参加）した」は36.3%（38.7%）となっていて、「鑑賞（参加）したことがある」は横ばいの傾向にある。観客の満足度を実行委員会主催事業で見ると、「とても満足」「満足」合わせると79.9%（78.0%）で、ここ3年間80%台に近づいている。また「ぜひ鑑賞（参加）したい」「鑑賞（参加）したい」が合わせて90.4（85.9%）で過去3年間で最も高く、9割の人の鑑賞（参加）希望がある。この期待感を裏切らない企画・事業が次の“飛躍”につながっていくのではないかと。

イベント名	観客数 (人)	アンケート 回収数	回収率 (%)	目標
八賢伝	1,019	357	35.0	35.0
鳥取JAZZ	3,300	252	7.6	30.0
日野町民ミュージカル	666	205	30.8	30.1
東部地区イベント	4,854 (3,706)	1,111 (294)	22.9 (7.9)	30.0
中部地区イベント	8,679 (4,647)	320 (714)	3.7 (15.4)	20.0
西部地区イベント	7,410 (4,707)	507 (294)	6.8 (7.9)	30.0
実行委員会主催事業 計	25,928 (14,052)	2,752 (1,579)	10.6 (11.2)	28.7

実行委員会主催事業の鑑賞（参加）者の性別は男性32.8%、女性64.9%となっていて、男性の割合が4.4%増加して3割を超え、男性の参加者の減少に歯止めがなかった。とはいえ、やはりどう男性を「とりアート」ひいては文化芸術の世界に取り込むか、依然として大きな課題である。鑑賞（参加）者の年齢層は、前回と比べると30代未満が6.5%減少し、50代以上では6.9%増加している。「男性と20代の鑑賞者発掘と拡大」は引き続き追求しなければならない課題である。

また、「若者が参画できる環境整備」のためには教育機関との連携を図る必要がある。今回はメイン事業の『八賢伝』をはじめ「キラリ☆アートプロジェクト」の『鳥取JAZZ』、『日野町民ミュージカル』、東部・中部・西部3地区の地区イベントで高校生や小・中学生、大学生や保専生などの参加があり、教育機関との連携が図られた成果として見る事ができる。ただ、連携強化のためには「より積極的な行政機関（県）の協力を望む」という実施者の声もある（「自己評価シート」）。

鑑賞（参加）者の居住地は、実行委員会主催事業全体では、開催地周辺市町村からの参加がここ3年間約8割。県外を含めた開催地周辺以外からの観客が多かったのは、『八賢伝』32.9%、県外からの観客が最も多かったのは『鳥取JAZZ』10.3%となっている。また、開催地周辺からの観客の割合は、『日野町民ミュージカル』が最も多くて約9割（89.3%）となっている。

(1)「第1次・実施者の自己評価」

「第1次自己評価」の平均提出率は83.3%。内訳は、実行委員69.2%、地区企画運営委員会委員82.6%、事務局100%となっていて、一昨年に比べて2年続けてダウン。

<マネジメント力>

自己評価の大きな課題は「マネジメント力」。アートマネージャーは事業の企画・準備・推進・運営・予算事務をこなさなければならず、裏方とはいえ事業で果たす役割は重要である。実施者の自己評価では、4.0満点で本番の運営は3.3点で昨年度よりやや上がり、概して事業は円滑に実施されたと答えている。

今回の「キラリ☆アートプロジェクト」は2事業ともアートマネージャーが新人であり、総合プロデューサーの厳しい指導もあって、人材育成の場になっていた。ただ、現在のアートマネージャーは負担が多く、アートマネージャーの位置づけや実行委員との役割の再考が必要との意見がある（「自己評価シート」）。また、「新規のアートマネージャーを育成することは時間とその間の人材に対する生活保障がなされなければ難しく」「現状では育成プログ

ラムが貧弱」という実施者の切実な声(同上)があり、育成の長期展望・予算とのからみがあるが、真摯に受け止めて検討すべき課題である。

<実施者アンケート>

実行委員会主催事業の実施者アンケートでは、出演者自身が「とても満足」「満足」合わせて79.0%、また(次回)「参加(出演)したい」は63.5%。満足度についてはここ数年横ばいの傾向で、次回への参加希望については前回から3.9%の増になっている。

出演者の性別は女性78.0%、男性20.8%となっていて、女性8割、男性2割となっており、依然として女性の割合が高い。出演者の年齢は昨年と比較すると20代以下が8.6%減少し、若年層の参加率が減少した。『八賢伝』は20代以下の若者の参加の占める割合が高く(61.5%)、企画とのからみもあるが、若年層の参加の拡大も課題である。

(2)「第2次・評価委員の報告」

<概要>

外部の第2次評価は評価委員14人が分担し、可能な限り複数の委員で実地検証してレポートを提出し、意見交換・論議を重ねて一本にまとめた。文化芸術の評価には絶対的な基準はなく、異なるとらえ方や見方があるということを保証した上でのまとめである。なお、今回のまとめでは、前回に引き続き各事業評価の様式について、“戦略”に対して達成の有無を簡潔に記載し、その他の項目についても箇条書きにすることとした。シンプル過ぎるかもしれないが、分かりやすさを旨とした。

概観すれば、さまざまな課題—なかんずくメイン事業と地区イベントのあり方という検討課題はあるが、設定された定性目標・戦略はおおむね達成され、レベルも一定担保されて楽しめる事業になってきているといえる。事業ごとの評価結果については、とりまとめをした評価委員の名前入りで載せており、詳しくはその事業別評価を参照願いたい。

<メイン事業>

2年かけて制作された『八賢伝』、その成果はどうであったか。準備期間が1年間となり、したがって稽古期間も長くとることができ、発声も含めて一定のレベルは担保したことは、成果として評価していい。観客アンケートでも満足度が95.8%と高く(!)、感想にも「感動！」(観客)「稽古の密度が濃い」「感動的な舞台」(実施者)と熱い思いが多く記されている。ラストのプロと地元高校生とのコラボレーションによる演奏は聴きごたえがあった。定性目標・戦略もそれぞれについて見ていくと、それなりに達成している。出演者・スタッフをはじめ関係者の努力や熱意、真摯さを多とするにやぶさかではない。しかし、「とりアート」及びメイン事業のためにあえて忌憚なくいえば、トータルとして感動が湧き上がってこず、伝わってくるもののない舞台であった、と言わざるをえない。専門家の評価も「空間に負けた舞台」「冗漫な舞台」「俳優の動きが、横移動のみで、非常に平板」等と厳しい。実行委員の中にも「2年間かけたわりには、ストーリー展開が退屈で、完成度はあまり高くなかった」(「自己評価シート」)という声が見受けられた。今なぜこのテーマなのか、どんなメッセージを伝えたいのかという疑問が拭い切れず、根源的な人間性への問い掛け、今を生きる私たちにつながるものが見えてこない。企画、テーマ選択、メッセージ性等について実行委員会で深く討議・検討し、それを広く公表していく必要があるのではないか。重要な課題として提起したい。

<キラリ☆アートプロジェクト>

県民からの公募により選ばれた地域で活動するアーティスト等による企画「キラリ☆アートプロジェクト」の2事業は、概括的にいえば、課題はあるが定性目標及び戦略はほぼ達成されている。観客の満足度(「とても満足」「満足」)は『鳥取JAZZ』90.1%、『日野町民ミュージカル』89.8%と高く、「ぜひ鑑賞(参加)したい」「鑑賞(参加)したい」も『鳥取JAZZ』は92.9%と高率である。また、『鳥取JAZZ』は男性の割合が5割(49.6%)と最も高く、女性の割合は『日野町民ミュージカル』で最も高くなっている(70.7%)。

『鳥取JAZZ』は市街地で開催するという発想がよく、路上での演奏はステージ上の演奏以上の迫力があり、幅広い年齢層の人がジャズを楽しんで好評であった。演奏の場を与え

られた地元のプレーヤーにとっては成果発表の貴重な機会となり、若い人の育成や今後の活動意欲を高めることにつながると思われる。一方、PR不足、集客への努力については課題である。また、観客アンケートの中には、定期的な開催を望む声が多数あった。

『日野町民ミュージカル』は、町民ミュージカルとして9年の歴史があり、10周年を機に地元密着型から広く県民に観てもらいたいということで「とりアート」に参加し、ステップアップを図った。その意欲は評価したい。観客アンケートの感想も好意的なものが多く、舞台にも運営にも細やかな気配りが伺え、観る者を楽しませた。小さな町の特性を生かし、ミュージカルが町の活性化にもつながることを期待したい。ただ、さらなるステップアップのためには、地元の題材を使いながらも、普遍性を持ったミュージカルの創造への挑戦が必要ではないか。

<各地区イベント>

次に、地区イベントについて。3地区それぞれのコンセプトがあり、独自のテーマを設定し、音楽コンサート、合唱、ダンス、絵画展示、映像イベント等多彩な催しが企画・実施された。

東部地区のコンセプトは「因幡にぎや街道2011～アートはじける、ハートつながる！～」。スケートや着物ショー、手踊りやダンス、クラシック音楽の演奏、日本舞踊、ジャズを楽しむコンサート等多彩。ワークショップへの参加も多く、「因幡にぎや街道」が根付いてきたと思われる。子どもたちが活躍するステージは、高齢社会に突入した現在に希望をもたらす。しかし出演団体に「とりアート」自体を広報してもらおう仕組みの検討等の課題がある。また、コンセプトが根付いてきているとはいえもっと明確な「テーマの設定」が必要ではないか。

中部地区のコンセプトも引き続いての「ええじゃないか！中部～未来を奏でる文化のまち～」。「次世代育成」等の重点目標を掲げた。会場の倉吉未来中心に誘客と回遊性を生むゲーム性のある仕掛けが取り入れられて賑わった。キーワードハンターや和菓子づくり体験など創意工夫を凝らした取り組みがあり、中部少年少女合唱団MIRAIや多世代交流コンサート等は観客も多くて好評であり、運営スタッフにも若い世代が目立ったのも評価できる。会場に足を運んだ幅広い世代の参加者は芸術文化を楽しんでいるが限定的であり、裾野を広げることが課題。

西部地区は「きらめき」をテーマとし、「いつもの『まち』で『文化』する！」がコンセプト。55プログラムのうち半数が新規実施者で、新たな活動の場の提供や新規鑑賞者の開拓の機会となった。映像フェスティバルは米子から全国発信のユニークな企画。「米子八景」は継続して再演される中で深化された。会場が米子コンベンションセンターと公会堂等、距離的に離れた会場で人の流れが分散した。好企画であっただけに調整が課題。出演・出店での若者の参加が多く見られ、今後の発展につなげてほしい。西部地区の文化活動者の発表の場として定着しつつあると評価したい。

4 課題と今後の展望

「とりアート」は3年サイクルで第1段階の「創成期」<基礎固め>、第2段階の「成長期」<独自性の確立>、そして第3段階の「飛躍期」<地域文化の定着と全国発信>と続いて、今回の第9回を以てそのスパイラル計画を終えた。もとより芸術文化は短時期で成長・成熟は望めず、人材育成も時間を必要とする。したがって「飛躍期」を終えたからといってスパイラル計画どおりに目標が達成されたわけではなく、<地域文化の定着>にしる<全国発信>にしる、いまだ道遠しである。ただ、この9年間、「とりアート」は事業を実施し検証して改善を重ね、試行錯誤をしながらノウハウを蓄積し、人を育て、一定の成果をあげてきた。公的資金を活用して実施するからには安易な取り組みは許されないが、この9年間の蓄積が来年度からスタートする「とりアート構想」に基づく「とりアート」に生かされ、「とりアート」が熟成して地域の活性化、県民生活の質の向上に寄与しうる事業になっていくよう期待したい。

<課題>

メイン事業についてはすでに触れたので重複は避ける。今までのメイン事業は地域と結びつけるテーマの追求に腐心するあまり、企画が狭まっていた嫌いはなかったか。時代劇を一概に否定するものではなく、『八賢伝』を評価された専門家の九鬼葉子氏もいわれるように「地元の歴史的財産を素材に作品を作ることは、貴重なこと」である。ただ、第6回の「評価報告書」でも提案したように「私たちに身近でいまに続く現代的テーマを取り上げる必要」があり、『時代』を引き寄せて、もっとリアリティーのあるテーマを望みたい」と重ねて問題提起をしたい。なお、「このような大プロジェクトを継続させている鳥取県は素晴らしい」と、「文化行政として貴重な企画」と評価しながらの九鬼氏の厳しい評言は「とりアート」及びメイン事業の発展を願ってのエールとして受け止めたい。

地区イベントは、3地区それぞれのコンセプトで企画・実施されていてそれなりの「成果」が見られるが、鳥取文化のレベルアップを図るためには情緒的な「スローガン」ではなく、もっと明確な「テーマの設定」が必要ではないか。「とりアート」で芸術文化を楽しんでいる県民はまだ限定的であり、「県の、地域の芸術文化祭」という活気を生み出すに至っていない。実行委員をはじめ事業実施関係者の熱意、真摯な思いや取り組みを感じるだけに、どう広く「県民の」文化祭にしていくか、どう地域で育てていくか、「とりアート」の次の段階へのステップアップに向けて、明確なコンセプトの検討を望みたい。実行委員の「自己評価シート」にも、「ホビーとアート、芸術と芸能、混沌とした中でお祭騒ぎの文化的事業」になっていて、「バックボーンとなる明確なコンセプト」「ベクトル（方向性）の統一」が必要不可欠という同様の提起がなされている。

<今後の展望>

第5回の県企画アートチャレンジ事業の「ミュージカル劇団ゆめ」（淀江町）、第6回の「湯梨浜町民ミュージカル」、第7回からは「キラリ☆アートプロジェクト」となったの「ミュージカル劇団ゆめ」（劇団をベースにスタッフ・キャストを公募）、第8回は再び「湯梨浜町民ミュージカル」、そして今回の「日野町民ミュージカル」と、それぞれ地域に根ざして活動している劇団のミュージカル公演が5年続いた。中には地域の支援を受け、多くの住民の共感を得ながら官民が協働して活動し、公演を続けている劇団もある。文化芸術が地域づくりや人づくりの一翼を担っている。実行委員の「自己評価シート」中の「地域に根づきつつある住民手づくりの文化芸術をもっと発掘し、育てていくことこそ、スタートから10年を迎えるとりアートの今後の進むべき道ではないか」という提起は貴重な示唆与えてくれる。「官主導」から「県民主導」の「とりアート」を視野に入れる時、「日野町民ミュージカル」の「町民100人の会」（目標の倍以上の239人が加入）等は、自分たちの文化活動を支援してくれるサポーターを自分たちで集めるという他力本願でない主体的な取り組みであり、あるべき方向を示している。地域の住民の、サポーターの熱意は活動の支えとなって貴重である。しかし、『日野町民ミュージカル』を評価している立花恵子氏もいわれるように、芸術・文化の創造と発展に「身びいきは最大の敵」であり、『観客の成長』が大事な要素でもあることを、文化芸術を創造する側も鑑賞・支援する側もともに肝に銘じなければならない。細胞生物学の権威で歌人の永田和宏氏は「文化と言えはまずその送り手のことばかりに目がいきがちだが、文化はその受け手を育て、目利きを育てることが、継承にとってはなにより大切」（『もうすぐ夏至だ』白水社）と語っている。「観客の成長」「受け手」の育成—「とりアート」にとっても事業を実施しながら意識して追求していくべき重要な課題ではないかと思われる。

最後に、スタート当初から献身的に「とりアート」を支えて鳥取文化の発展に尽力された総合プロデューサーの柴田英紀氏が任期を終えて退任された。その長年の労を多とし、10年を迎える「とりアート」のさらなる充実・発展を願うとともに、より多くの県民の「とりアート」への参加を祈って総合評価を終えることにしたい。

（鳥取県総合芸術文化祭評価委員会 座長 植田 丞）

II 鳥取県総合芸術文化祭の実施概要

1 第9回とリアート（鳥取県総合芸術文化祭）の実施結果

1 概要

県民による文化芸術の祭典として、特色ある地域文化の振興を図ることを目的に、県内各地で様々な文化芸術事業が実施された。

実行委員会事業として、メイン事業「八賢伝」、キラリ☆アートプロジェクト（県民からの企画公募事業）及び参加・体験型事業（フリースペースイベント、ワークショップ）を実施し、地域に根ざした創造的な芸術事業や、気軽に文化芸術にふれることのできる多彩な事業に取り組んだ。

2 開催期間

平成23年9月1日（木）から12月31日（土）まで

3 実施主体

主催：鳥取県総合芸術文化祭実行委員会、鳥取県、鳥取県教育委員会、
（財）鳥取県文化振興財団、鳥取県文化団体連合会

4 実施状況

参加人数 実行委員会事業 計25,928人（対前年+11,268人）
主 催 事 業 計40,002人（対前年+ 9,795人）
総事業数 294事業（主催事業145、参加事業149）

5 事業内容

（1）主催事業

■メイン事業

事業名	期日・場所	内容
八賢伝	10月16日(日) 倉吉未来中心	倉吉に今なお残る里見伝説を音楽と演劇とのコラボレーションにより上演。

■キラリ☆アートプロジェクト

県民からの公募により選ばれた地域で活動するアーティスト等による企画

事業名	期日・場所	内容
鳥取JAZZ ～ジャズとつながる、ジャズ でつながる～	10月29日(土)から 11月13日(日)まで とりぎん文化会館、 鳥取市内市街地ほか	鳥取市の中心市街地でコンサートや展示などを行うジャズフェスティバル。
日野町民ミュージカル第10回 記念公演「きらりこの町」 ～遠いむかしむかし、僕たち の町おこし～	11月19日(土) 20日(日) 日野町文化センター	日野町を舞台に、自然との共生・友情と、ふるさと再生への希望を描くミュージカル。

■ワークショップ・オープンスペースイベント参加体験型事業〈3地域 127事業〉

気軽に文化芸術を体験する、各種ワークショップやフリースペースを利用したステージ発表、展示など各地区独自のイベントを企画・実施

地区	期日・場所	内容
東部地区 イベント	11月12日(土) ～13日(日) とりぎん文化会館	「因幡にぎや街道 2011～アートはじける、ハートつながる！～」をテーマに、コンサート「音楽の喫茶店」、ダンスとファッションのコラボショーなどを実施。(46事業)
中部地区 イベント	10月14日(土) ～15日(日) 倉吉未来中心	「ええじゃないか！中部～未来を奏でる文化のまち～」をテーマに、少年少女合唱団コンサート、和紙で制作された里見八賢士像の展示などを実施。(27事業)
西部地区 イベント	10月22日(土) ～23日(日) 米子コンベンションセンター、米子市公会堂ほか	「いつものまちで文化する！」をテーマに、よなご映像フェスティバル、ダンスコンテスト、公会堂前でのコンサートなどを実施。(54事業)

■県主催事業〈1事業〉

事業名	期日・場所	内容
第55回 鳥取県美術展覧会	9/23(金) ～11/23(水) 県立博物館ほか	県民からの応募による洋画・日本画・版画・彫刻・工芸・書道・写真・デザインの入選作品を展示。

■県文化団体連合会主催事業〈14事業〉

事業名	期日・場所	内容
とっとり県陶芸の 集い	9月16日(金) ～20日(火) 米子市美術館	県内のプロ、アマチュアを問わず陶芸愛好家の作品を一同に展示。
音楽日和 ライブフェスティバル鳥取 vol.13	9月17日(土) 18日(日) 鳥取市文化ホール	様々な音楽ジャンルのアマチュアミュージシャンによる演奏を披露。
第18回 鳥取県シティバンドフェスティバル	9月25日(日) 倉吉未来中心	県内の吹奏楽団によるアレンジ・ポップス等の演奏により、日ごろの活動の成果を披露。
第35回 鳥取県川柳大会	10月15日(土) 米子コンベンションセンター	川柳愛好家が投句した作品の中から各題の選者が秀句を選出。
鳥取県和太鼓連盟 コンサート「和太鼓 ふるさとの響 2011」	10月16日(日) 南部町立ふるさと交流センター	各団体による和太鼓演奏やパフォーマンスの披露。
とりにん 人形劇カーニバル イン イン よなご	11月6日(日) 米子市児童文化センター	アマチュア劇団と招へいゲスト及び県外プロ人形劇団による人形劇上演。
第40回鳥取県短歌 大会(第16回鳥取 県民短歌賞)	11月6日(日) まなびタウンとうはく	短歌愛好家から募集した作品を紹介、児童・生徒による作品を表彰した世代間交流。
2011 ヤングピアニ ストコンサート	11月13日(日) 米子市文化ホール	県内ピアニストと全国トップレベルの演奏。
「ダンスの日」記念 ダンス交流会	11月23日(水・祝) ゆうゆう健康館けたか	ダンス交流、ジュニアダンスなどの演技発表や講習会を実施。

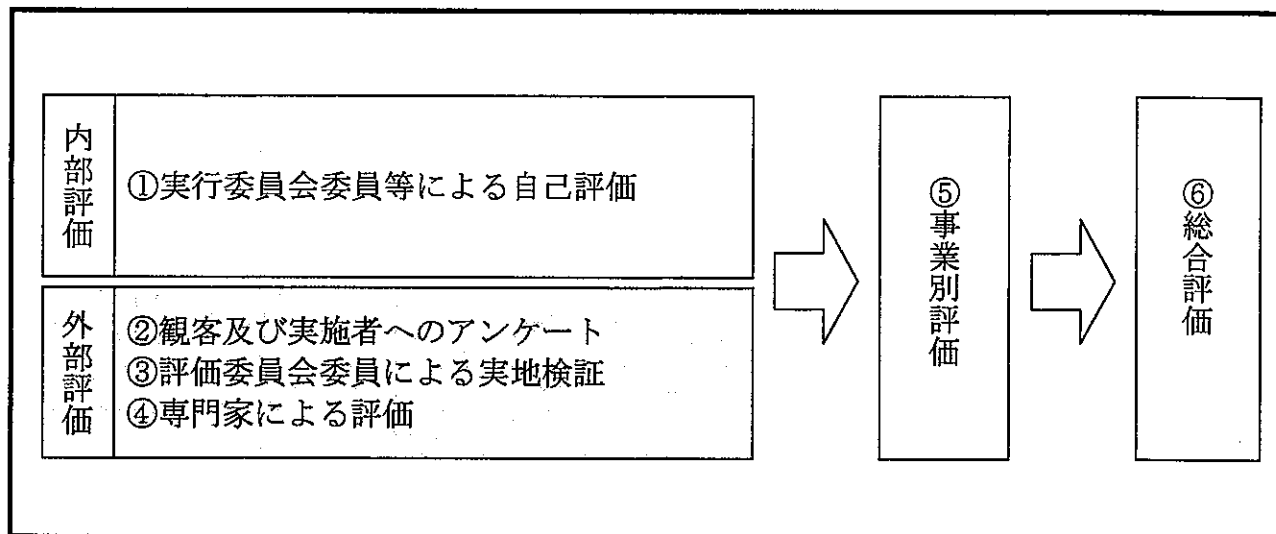
三流合同謡曲仕舞大会	11月25日(金) 米子市文化ホール	県下3地区の流派による謡曲、詩舞、狂言などの合同発表。
第9回 鳥取県民謡まつり	11月27日(日) 米子市淀江文化センター	各団体の民謡・民舞の発表により、民謡文化のすばらしさを披露。
第16回 鳥取県俳句大会	11月27日(日) さざんか会館	俳句愛好者や児童・生徒の参加による俳句の発表と表彰。
オペラ「窓 ウィンドウズ」	12月3日(土) 4日(日) とりぎん文化会館	日本語による新作オペラをオムニバス形式で上演。
県民による第九 倉吉公演	12月25日(日) 倉吉未来中心	「第九」公演の東・中・西部での巡回公演。

(2) 参加事業

鳥取県総合芸術文化祭の基本方針に賛同した事業が県内各地で実施開催された。(149事業)

2 評価の実施概要

鳥取県総合芸術文化祭の基本方針に定められた「定性目標・戦略」及び予め設定された「定量目標」の達成状況などについての評価を、下図の手順により実施した。



(1) 自己評価

実行委員会委員、地区企画運営委員会委員及び事務局による自己評価を、18の評価項目について点数評価（4点満点）とその根拠を記載する方式で実施。

【自己評価提出状況】

区分	提出数	対象人数	提出率	昨年の提出率
実行委員会委員	9	13	69.2%	75.0%
地区企画運営委員会委員	38	46	82.6%	88.9%
事務局	13	13	100.0%	100.0%
計	60	72	83.3%	86.6%

(2) 観客アンケート及び実施者アンケート

観客（鑑賞者・参加者）及び実施者（出演者・スタッフ）に対してアンケートを実施。

事業名	観客アンケート			実施者アンケート		
	観客数 ※1	アンケート 回収数※2	回収率	実施者数	アンケート 回収数	回収率
メイン事業「八賢伝」	1,019	357	35.0%	31	13	41.9%
鳥取JAZZ～ジャズとつながる、ジャズでつながる～	3,300	252	7.6%	35	33	94.3%
日野町民ミュージカル第10回記念公演「きらりこの町」～遠いむかしむかし、僕たちの町おこし～（3回公演）	666	205	30.8%	40	18	45.0%
東部地区イベント（46事業）	4,854	1,111	22.9%	446	215	48.2%
中部地区イベント（27事業）	8,679	320	3.7%	711	106	14.9%
西部地区イベント（54事業）	7,410	507	6.8%	660	220	33.3%
実行委員会主催事業 計（A）	25,928	2,752	10.6%	1,923	605	31.5%
第55回鳥取県美術展覧会	9,497	817	8.6%	未実施		
県主催事業 計（B）	9,497	817	8.6%	—	—	—
合計（A+B）	35,425	3,569	10.1%	1,923	605	31.5%

とっとり県陶芸の集い	677	425	62.8%	188	154	81.9%
音楽日和 ライブフェスティバル鳥取 vol.13	371	147	39.6%	15	5	33.3%
第18回鳥取県シティバンドフェスティバル	157	78	49.7%	229	117	51.1%
第35回鳥取県川柳大会	131	60	45.8%	13	13	100.0%
鳥取県和太鼓連盟コンサート「和太鼓ふるさとの響 2011」	238	101	42.4%	121	63	52.1%
とりにん人形劇カーニバル イン よなご	785	47	70.0%	25	10	40.0%
第40回鳥取県短歌大会(第16回鳥取県民短歌賞)	120	33	27.5%	10	8	80.0%
2011 ヤングピアニストコンサート	395	48	12.2%	52	18	34.6%
「ダンスの日」記念ダンス交流会	100	49	49.0%	25	14	56.0%
三流合同謡曲仕舞大会	30	16	53.3%	30	16	53.3%
第9回鳥取県民謡まつり	401	238	59.4%	152	74	48.7%
第16回鳥取県俳句大会	120	30	25.0%	21	17	81.0%
オペラ「窓 ウィンドウズ」	475	31	6.5%	30	20	66.7%
県民による第九倉吉公演	577	147	25.5%	172	100	58.1%
県文化団体連合会主催事業 計 (C)	4,577	1,450	31.7%	1,083	629	58.1%
総計 (A+B+C)	40,002	5,019	12.5%	3,006	1,234	41.1%

※1 地区イベントの観客数：ステージ、ワークショップ等それぞれの事業実施者が把握した参加者数の延べ人数。中部地区を除き、フードコーナー利用者数を含む。

※2 地区イベントのアンケート回収数：アンケートに鑑賞したとして回答のあった数の延べ事業数

(3) 評価委員会委員による評価

評価委員会委員による実地検証を実施し、事業ごとに「定性目標の達成度及び戦略についての検証」、「成果と課題」及び「事業に対する意見」をレポート形式で提出。この実地検証結果を基本に、評価資料（自己評価、観客アンケート及び実施者アンケート、専門家評価等）を参考として評価を行い、事業ごとの成果と今後の課題を『事業別評価』としてまとめた。

(4) 専門家による評価

今後の良質な作品創造に資するため、主な事業について、専門家による芸術性・マネジメントなど多様な観点からの評価を実施。

評価を実施した事業及び評価した専門家は次のとおり。

対象事業	専門家	所属等
メイン事業「八賢伝」	九鬼 葉子	演劇評論家、大阪芸術短期大学准教授
鳥取JAZZ ～ジャズとつながる、ジャズで つながる～	野田 邦弘	鳥取大学地域学部地域文化学科教授
日野町民ミュージカル 第10回記念公演「きらりこの町」 ～遠いむかしむかし、僕たちの町 おこし～	立花 恵子	演劇評論家

Ⅲ 自己評価

18の評価項目についての実行委員会委員、地区企画運営委員会委員（以下「委員」という。）による自己評価結果から、点数評価（4点満点）のうち平均3.2点以上の項目を「成果」、平均2.5点以下の項目を「課題」として整理した。

《成果》

- 【マネジメント】 事業実施までの準備、事業の推進
- 【マネジメント】 事業(本番)の円滑な運営
- 【戦略①】 アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携強化
- 【戦略⑨】 企画運営委員・出演者・スタッフ・作品企画等の公募制の導入
- 【戦略⑩】 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境の提供、各施設や場所の有効活用により、メイン会場を中心に街全体が劇場となる演出や工夫
- 【戦略⑬】 次世代を担う子どもたちに発表の場を提供

《課題》

- 【戦略④】 鳥取県が誇る文化観光資源を積極的に活用した全国発信

自己評価項目		実行委員・地区委員平均点 (4高～1低)	
		今回	前年
マ ネ ジ メ ン ト	事業の準備・推進に関すること →実施までの準備はどうであったか	3.2	2.6
	事業の運営(本番)に関すること →事業は円滑に実施されていたか	3.3	3.2
	予算に関すること →収入及び支出がどうであったか	2.9	2.8
定性目標1 鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信することができていたか？			
	【戦略①】 アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化することができたか？	3.3	2.8
	【戦略②】 良質な新作を創造するとともに、製作した作品の練り上げ(再演)を行うことができたか？	3.0	2.6
	【戦略③】 伝統芸能や郷土芸能のみでなく、幅広く鳥取県の地域文化を継承し、創造する事業を展開することができたか？	2.9	2.7
	【戦略④】 鳥取県が誇る文化観光資源を積極的に活用し全国発信することができたか？	2.3	2.1
定性目標2 県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促すことができたか？			
	【戦略⑤】 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成することができたか？	3.0	2.7
	【戦略⑥】 文化祭全体でアートマネジメント力を強化することができたか？	2.8	2.7
	【戦略⑦】 総合的な広報に加え、県外に対する発信性を高めることができたか？	2.6	2.0
	【戦略⑧】 各施設や場所の有効活用により、メイン会場を中心に街全体が劇場となるよう演出や工夫を行うことができたか？	3.1	2.5
	【戦略⑨】 企画運営委員・出演者・スタッフ・作品企画などに公募制を取り入れることができたか？	3.3	2.9

定性目標3 市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ることができていたか？		
【戦略⑩】 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えることができたか？	3.3	3.0
【戦略⑪】 多様な文化芸術活動を選択できるような魅力ある事業を実施することができたか？	3.1	3.1
【戦略⑫】 鑑賞者が文化芸術をより楽しむためのアウトリーチ事業を行うことができたか？	2.9	2.6
定性目標4 教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供することができたか？		
【戦略⑬】 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供することができたか？	3.5	3.2
【戦略⑭】 教育機関等と連携し、親と子、家族などで交流・参加できるような鑑賞型・体験型事業を行うことができたか？	3.0	2.6
【戦略⑮】 若者が参画できる環境整備を進め、若者が主導となり、企画・参画する事業を展開することができたか？	3.0	2.9

IV 観客・実施者アンケート

1 観客アンケート

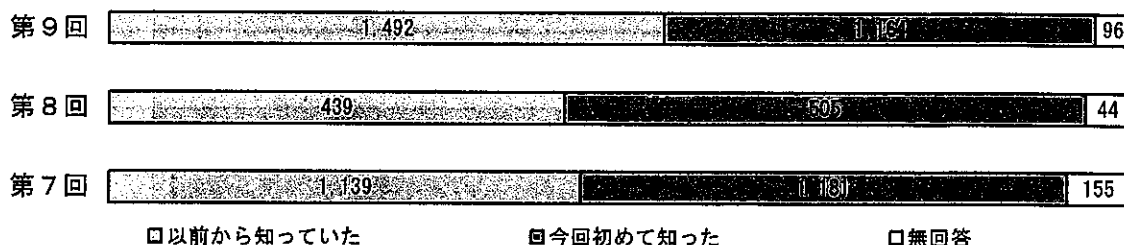
■「とリアート（鳥取県総合芸術文化祭）」という催しがあることを知っていましたか？

- 「以前から知っていた」が前回に比べ10%近く増加し、県民への定着が窺える。
 ○メイン事業の実施等、観客数の増加に伴い、アンケート回答数が大きく増加した。

【過去3年間の比較（実行委員会主催事業のみ）】

（単位：人）

	第9回	第8回	第7回
以前から知っていた	1,492 (54.2%)	439 (44.5%)	1,139 (46.0%)
今回初めて知った	1,164 (42.3%)	505 (51.2%)	1,181 (47.7%)
無回答	96 (3.5%)	44 (4.5%)	155 (6.3%)
計	2,752	988	2,475



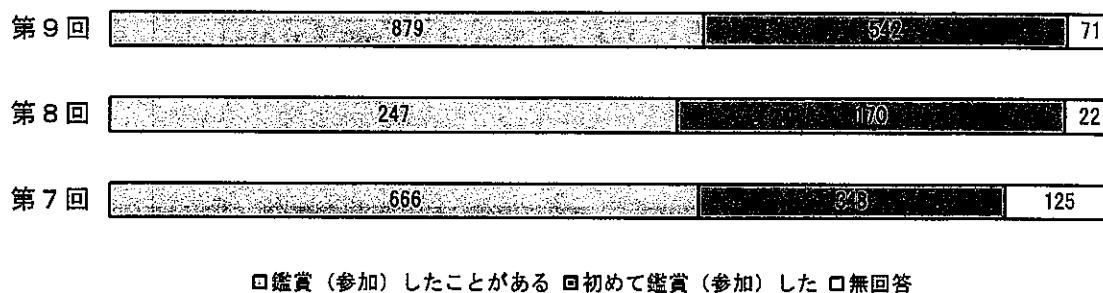
■これまでに「とリアート（鳥取県総合芸術文化祭）」の催しに鑑賞（参加）したことがありますか？（「とリアートを以前から知っていた方」への設問）

- とリアートへの参加経験については、「鑑賞（参加）したことがある」と回答した方は、横ばいの傾向にある。

【過去3年間の比較（実行委員会主催事業のみ）】

（単位：人）

	第9回	第8回	第7回
鑑賞（参加）したことがある	879 (58.9%)	247 (56.3%)	666 (58.5%)
初めて鑑賞（参加）した	542 (36.3%)	170 (38.7%)	348 (30.6%)
無回答	71 (4.8%)	22 (5.0%)	125 (11.0%)
計	1,492	439	1,139



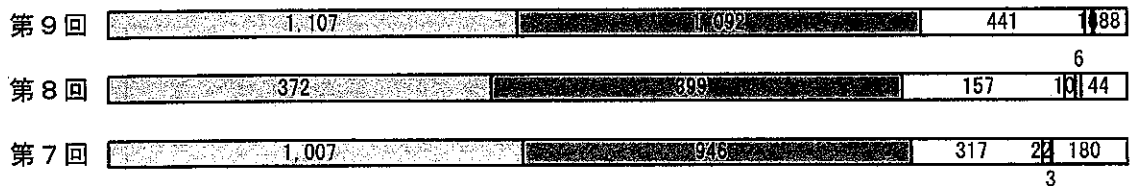
■本日の催しはいかがでしたか？

- 「満足」、「不満」の割合は、ほぼ横ばいの傾向にある。
- 「とても満足」、「満足」と回答した方を事業別に見ると、八賢伝 (95.8%、342/357 人) が最も高く、次いで鳥取 J A Z Z (90.1%、227/252 人)、日野町民ミュージカル (89.8%、184/205 人) と続き、メイン事業、キラリ☆アートプロジェクトは満足度が高い。各地区イベントでは7割台 (74.6%、1,446/1,938 人) の満足度となっている。

【過去3年間の比較 (実行委員会主催事業のみ)】

(単位:人)

	第9回	第8回	第7回
とても満足	2,199 (79.9%)	771 (78.0%)	1,953 (78.9%)
満足			
普通	441 (16.0%)	157 (15.9%)	317 (12.8%)
不満	24 (0.9%)	16 (1.6%)	25 (1.0%)
とても不満			
無回答	88 (3.2%)	44 (4.5%)	180 (7.3%)
計	2,752	988	2,475



□とても満足 □満足 □普通 □不満 □とても不満 □無回答

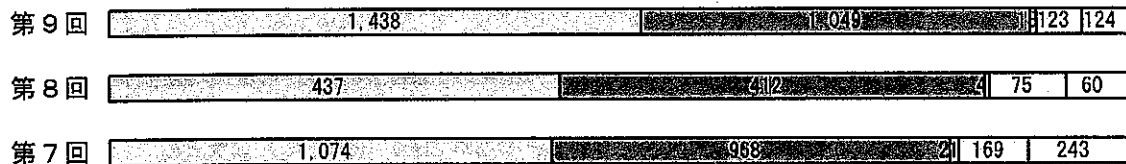
■また鑑賞 (参加) してみたいですか？

- 次回への参加については、過去3年間で最も高く9割の方の鑑賞 (参加) 希望がある。
- 次日も鑑賞 (参加) を希望した方を事業別に見ると、中部地区イベント (100%、320/320 人)、八賢伝 (94.1%、336/357)、鳥取 J A Z Z (92.9%、234/252) となっており、全体でも9割を超えた。

【過去3年間の比較 (実行委員会主催事業のみ)】

(単位:人)

	第9回	第8回	第7回
ぜひ鑑賞 (参加) したい	2,487 (90.4%)	849 (85.9%)	2,042 (82.5%)
鑑賞 (参加) したい			
もう鑑賞 (参加) したくない	18 (0.7%)	4 (0.4%)	21 (0.8%)
わからない	123 (4.5%)	75 (7.6%)	169 (6.8%)
無回答	124 (4.5%)	60 (6.1%)	243 (9.8%)
計	2,752	988	2,475



□ぜひ鑑賞 (参加) したい □鑑賞 (参加) したい □もう鑑賞 (参加) したくない □わからない □無回答

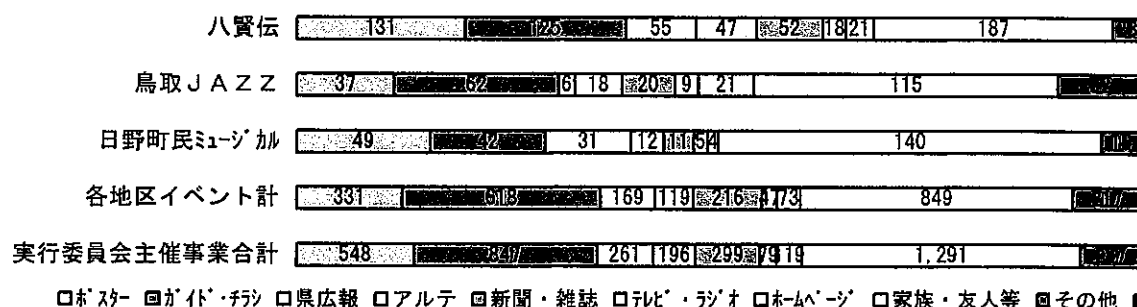
■本日の催しを何でお知りになりましたか？（複数回答可）

○いずれの事業でも「家族・友人・知人」から知ったという方が最も多く、これにポスター、チラシといった印刷物が続く。最も低い媒体はテレビ・ラジオである。

【事業別の比較（実行委員会主催事業のみ）】

（単位：人）

	八賢伝	鳥取 J A Z Z	日野町民ミュージカル	各地区イベント計	実行委員会主催事業合計
ポスター	131 (19.9%)	37 (11.6%)	49 (15.9%)	331 (12.5%)	548 (14.0%)
チラシ・リーフレット	125 (19.0%)	62 (19.4%)	42 (13.6%)	618 (23.4%)	847 (21.6%)
県・市町村広報紙	55 (8.3%)	6 (1.9%)	31 (10.0%)	169 (6.4%)	261 (6.6%)
文化振興財団情報誌アルテ	47 (7.1%)	18 (5.6%)	12 (3.9%)	119 (4.5%)	196 (5.0%)
新聞・雑誌	52 (7.9%)	20 (6.2%)	11 (3.6%)	216 (8.2%)	299 (7.6%)
テレビ・ラジオ	18 (2.7%)	9 (2.8%)	5 (1.6%)	47 (1.8%)	79 (2.0%)
ホームページ	21 (3.2%)	21 (6.6%)	4 (1.3%)	73 (2.8%)	119 (3.0%)
家族・友人等	187 (28.4%)	115 (35.9%)	140 (45.3%)	849 (32.2%)	1,291 (32.9%)
その他	23 (3.5%)	32 (10.0%)	15 (4.8%)	217 (8.2%)	287 (7.3%)
計	659	320	309	2,639	3,927



■本日の催しを鑑賞（参加）した理由は何ですか？（複数回答可）

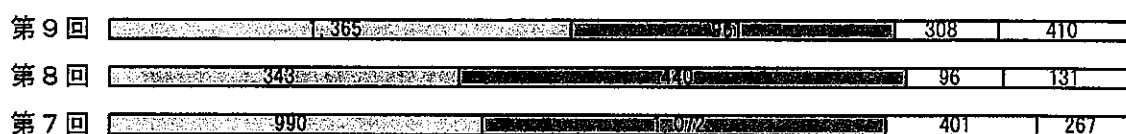
○「内容に興味があった」を鑑賞（参加）理由とした方が最も多く、事業別では、中部地区イベント（69.7%、216/310人）、八賢伝（51.7%、216/418人）、鳥取 J A Z Z（50.9%、146/287人）が多い。

○次に多い「関係者がいた」を理由とした方の事業別では、日野町民ミュージカル（46.9%、98/209人）、西部地区イベント（42.2%、236/559人）が多かった。

【過去3年間の比較（実行委員会主催事業のみ）】

（単位：人）

	第9回	第8回	第7回
内容に興味があった	1,365 (44.8%)	343 (34.0%)	990 (36.3%)
関係者がいた	961 (31.6%)	440 (43.6%)	1,072 (39.3%)
鑑賞(参加)を勧められた	308 (10.1%)	96 (9.5%)	401 (14.7%)
その他	410 (13.5%)	131 (13.0%)	267 (9.8%)
計	3,044	1,010	2,730



□内容に興味があった □関係者がいた □鑑賞(参加)勧められた □その他

■観客属性

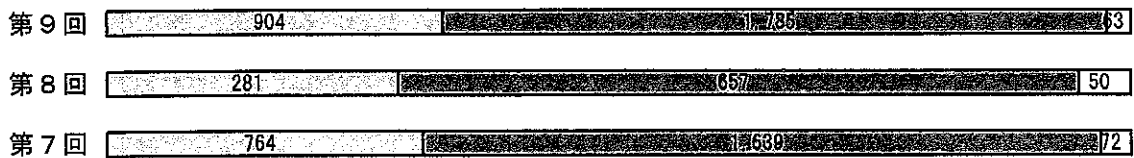
(1) 性別

- 男性の割合は4.4%増加し3割を超え、男性の参加者の減少に歯止めがかかった。
- 男性の割合が高いものを事業別に見ると、**鳥取JAZZ**が5割(49.6%、125/252人)と最も高く、地区イベントでは**西部地区**が約1割伸びた(38.3%、194/507人)。
- 女性の割合は、**日野町民ミュージカル**で最も高くなっている(70.7%、145/205人)。

【過去3年間の比較(実行委員会主催事業のみ)】

(単位:人)

	第9回	第8回	第7回
男性	904 (32.8%)	281 (28.4%)	764 (30.9%)
女性	1,785 (64.9%)	657 (66.5%)	1,639 (66.2%)
無回答	63 (2.3%)	50 (5.1%)	72 (2.9%)
計	2,752	988	2,475



□男性 □女性 □無回答 □

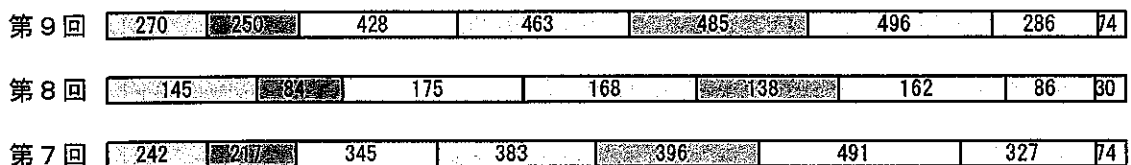
(2) 年齢

- 前回と比較すると30代未満が6.5%減少、50代以上では6.9%増加している。
- 30代以下の観客の割合が高い事業は、**鳥取JAZZ**(44.4%、112/252人)、**中部地区イベント**(41.6%、133/320人)となっている。
- 60代以上の観客の割合が特に高い事業は、**日野町民ミュージカル**(33.7%、69/205人)、**東部地区イベント**(31.9%、354/1,111人)となっている。

【過去3年間の比較(実行委員会主催事業)のみ】

(単位:人)

	第9回	第8回	第7回
20歳未満	270 (9.8%)	145 (14.7%)	242 (9.8%)
20代	250 (9.1%)	84 (8.5%)	217 (8.8%)
30代	428 (15.6%)	175 (17.7%)	345 (13.9%)
40代	463 (16.8%)	168 (17.0%)	383 (15.5%)
50代	485 (17.6%)	138 (14.0%)	396 (16.0%)
60代	496 (18.0%)	162 (16.4%)	491 (19.8%)
70歳以上	286 (10.4%)	86 (8.7%)	327 (13.2%)
無回答	74 (2.7%)	30 (3.0%)	74 (3.0%)
計	2,752	988	2,475



□20歳未満 □20代 □30代 □40代 □50代 □60代 □70歳以上 □無回答

(3) 居住地

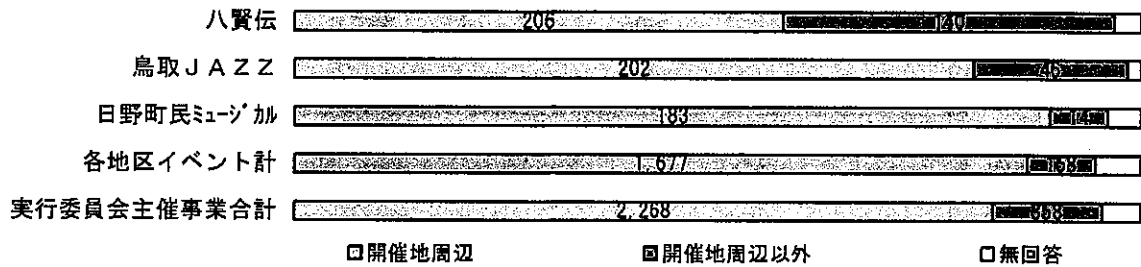
○実行委員会主催事業合計では、開催地周辺市町村からの参加が昨年と同様、約8割となっている。

○県外を含めた開催地周辺以外からの観客が多かったのは、八賢伝(39.2%、140人/357人)、県外からの観客が最も多かったのは鳥取JAZZ(10.3%、26人/252人)となっている。また、開催地周辺からの観客の割合は、日野町民ミュージカルが最も多く、約9割(89.3%、183人/205人)となっている。

【事業別の比較(実行委員会主催事業)のみ】

(単位:人)

	八賢伝	鳥取 JAZZ	日野町民 ミュージカル	各地区 イベント計	実行委員会 主催事業合計
開催地周辺	206(57.7%)	202(80.2%)	183(89.3%)	1,677(86.5%)	2,268(82.4%)
開催地周辺以外	140(39.2%)	46(18.2%)	14(6.8%)	158(8.2%)	358(13.0%)
うち県外	9(2.5%)	26(10.3%)	11(5.4%)	79(4.1%)	125(4.5%)
無回答	11(3.1%)	4(1.6%)	8(3.9%)	103(5.3%)	126(4.6%)
計	357	252	205	1,938	2,752



2 実施者アンケート

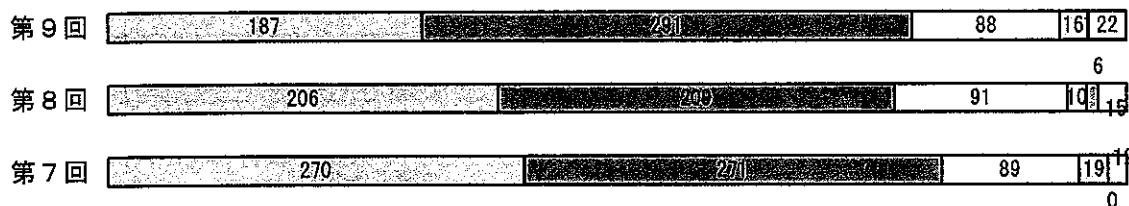
■今回、とリアート（鳥取県総合芸術文化祭）の主催事業としての参加（出演）はいかがでしたか？

- 満足度については、いずれも横ばいの傾向にある。
 ○「たいへん満足」、「満足」と回答した方を事業別に見ると、八賢伝（92.3%、12/13人）、日野町民ミュージカル（88.9%、16/18人）が高い。地区イベントでは、東部地区イベント（86.0%、185/215）が最も高かった。

【過去3年間の比較（実行委員会主催事業のみ）】

（単位：人）

	第9回	第8回	第7回
たいへん満足	478 (79.0%)	415 (77.3%)	541 (81.8%)
満足			
普通	88 (14.5%)	91 (16.9%)	89 (13.5%)
不満	17 (2.8%)	16 (3.0%)	19 (2.9%)
とても不満			
無回答	22 (3.7%)	15 (2.8%)	12 (1.8%)
計	605	537	661



□たいへん満足 □満足 □普通 □不満 □とても不満 □無回答

■またとリアート（鳥取県総合芸術文化祭）の主催事業として参加（出演）してみたいですか？

- 次回への参加については、前回から3.9%増の63.5%が「参加（出演）したい」と回答している。
 ○次回も参加（出演）を希望した方を事業別に見ると、東部地区イベント（74.4%、160/215人）、中部地区イベント（61.3%、65/106人）が高くなっている。

【過去3年間の比較（実行委員会主催事業のみ）】

（単位：人）

	第9回	第8回	第7回
参加（出演）したい	384 (63.5%)	320 (59.6%)	428 (64.8%)
もう参加（出演）したくない	7 (1.2%)	3 (0.6%)	2 (0.3%)
わからない	76 (12.5%)	67 (12.5%)	97 (14.7%)
無回答	138 (22.8%)	147 (27.4%)	134 (20.3%)
計	605	537	661



□参加（出演）したい □もう参加（出演）したくない □わからない □無回答

■実施者属性

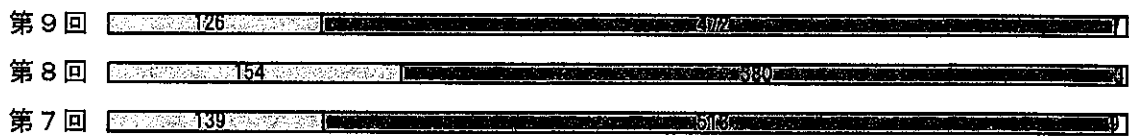
(1) 性別

- 女性 8割、男性 2割となっており、依然として女性の割合が高い。
- 事業別で男性の実施者が多いのは、**鳥取JAZZ** (男性 63.6%、女性 36.4%)、**八賢伝** (男性 46.2%、女性 53.8%)、男性の実施者が少ないのは**地区イベント** (地区平均で男性 17.4%、女性 81.3%) となっている。

【過去3年間の比較 (実行委員会主催事業のみ)】

(単位:人)

	第9回	第8回	第7回
男性	126 (20.8%)	154 (28.7%)	139 (21.0%)
女性	472 (78.0%)	380 (70.8%)	513 (77.6%)
無回答	7 (1.2%)	3 (0.6%)	9 (1.4%)
計	605	537	661



□男性 □女性 □無回答

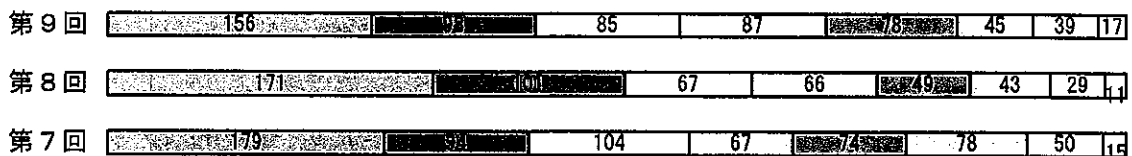
(2) 年齢

- 昨年と比較すると20代以下が8.6%減少し、若年層の参加率が減少した。
- 20代以下の若者の参加の占める割合を事業別に見ると、**八賢伝** (61.5%、8/13人)、**中部地区イベント** (50.9%、54/106人)、**西部地区イベント** (50.9%、112/220人) が高くなっている。

【過去3年間の比較 (実行委員会主催事業のみ)】

(単位:人)

	第9回	第8回	第7回
20歳未満	156 (25.8%)	171 (31.8%)	179 (27.1%)
20代	98 (16.2%)	101 (18.8%)	94 (14.2%)
30代	85 (14.0%)	67 (12.5%)	104 (15.7%)
40代	87 (14.4%)	66 (12.3%)	67 (10.1%)
50代	78 (12.9%)	49 (9.1%)	74 (11.2%)
60代	45 (7.4%)	43 (8.0%)	78 (11.8%)
70歳以上	39 (6.5%)	29 (5.4%)	50 (7.6%)
無回答	17 (2.8%)	11 (2.0%)	15 (2.3%)
計	605	537	661



□20歳未満 □20代 □30代 □40代 □50代 □60代 □70歳以上 □無回答

V 事業別評価

評価委員会委員による実地検証及び各種資料に基づき、事業別に予め設定された定性目標の達成状況及び成果と課題を整理した。

メイン事業 「八賢伝」

平成 23 年 10 月 16 日(日) 倉吉未来中心大ホール

執筆担当

前田 夏樹

大屋 由紀

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します

戦略② 良質な新作を創造するとともに、製作した作品の練り上げ(再演)を行います

戦略③ 伝統芸能や郷土芸能のみでなく、幅広く鳥取県の地域文化を継承し、創造する事業を展開します

戦略④ 鳥取県が誇る文化観光資源を積極的に活用し全国発信します

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

戦略⑤ 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成します

戦略⑥ 文化祭全体でアートマネジメント力を強化します

戦略⑦ 総合的な広報に加え、県外に対する発信性を高めます

戦略⑨ 企画運営委員・出演者・スタッフ・作品企画などに公募制を取り入れます

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

戦略⑫ 鑑賞者が文化芸術をより楽しめるためのアウトリーチ事業を行います

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

定性目標の達成状況

戦略①演劇、音楽の両面でプロとアマチュアのコラボレーションによる一定の成果がみられ、また演劇と音楽のコラボレーションにより芸術ジャンル間での連携が図られたことにより目標は達成された。

戦略②「里見伝説」を題材にドラマ性を加え、良質なエンターテインメントとして練り上げており、目標は達成された。

戦略③地元倉吉に伝わる物語を題材とし、地域文化として継承・深化しようとしており、目標は達成された。

戦略④全国発信の成果は確認できず、目標達成とは言い難い。

戦略⑤⑥⑦⑨演劇やオーケストラへの出演者だけでなく、運営スタッフに関しても公募を行い、人材育成に努めることができた。また地域と連携により、ポスターやリーフレットの発行、新聞による紹介など、積極的な広報活動も行われ、目標は達成された。

戦略⑩若者からお年寄りまで幅広い世代、また著名な音楽家の起用により新たな客層も呼び込むことができ、達成された。

戦略⑫出演者による成功祈願の実施によりある程度は達成できたが、全県的なアウトリーチは至っていない。

戦略⑬地元の高校生をオーケストラに加えることで達成された。

成果と課題

【成果】

- ・メイン事業を隔年実施としたことで、1年間の準備期間を設け、発声などの基礎的な稽古ができ、演劇としての完成度を高めることができた。
- ・音楽と演劇のコラボレーションは新鮮な感動を与えるものであり、また練り上げられたストーリーはドラマ性も高く、良質なエンターテインメントとして幅広い観客を楽しませることができた。
- ・積極的な広報活動や著名な音楽家の起用などにより、若者から年配の方まで多くの観客を動員することができた。
- ・上演中に観客を巻き込む演出（舞踊シーンで事前に配布された赤い布を振る）は舞台と観客の一体感を作り出すものとして効果的であった。
- ・地元の高校生や公募で選ばれたキャストの参加は人材育成の場として評価できる。

【課題】

- ・ドラマ性が高まったストーリーは評価できるが、舞台が狭く劇的なものではなく棒立ち、せりふで解説する形態が多く、演出面での制限がみられた。
- ・音楽やナレーションの大きさなどが鑑賞の弊害になることがあり、技術的に解決できる問題であれば改善が必要。
- ・なぜ今このテーマなのか、どんなメッセージを伝えたいのかを改めて考え直すことが必要ではないか。時代劇という設定は文化の継承という点で意義深いものではあるが、今という時代に必ずしも即しているものばかりではない。安易なテーマ設定に陥らず、現代に生きる私たちに何を伝えたいかを掘り下げ、テーマを発見、開拓することが必要ではないか。

キラリ☆アートプロジェクト 鳥取JAZZ～ジャズとつながる、ジャズでつながる～

平成23年10月29日(土)～11月13日(日) とりぎん文化会館、鳥取市内市街地ほか

執筆担当

横野 洋子

前田 夏樹

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します

戦略② 良質な新作を創造するとともに、製作した作品の練り上げ(再演)を行います

戦略③ 伝統芸能や郷土芸能のみでなく、幅広く鳥取県の地域文化を継承し、創造する事業を展開します

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

戦略⑤ 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成します

戦略⑥ 文化祭全体でアートマネジメント力を強化します

戦略⑦ 総合的な広報に加え、県外に対する発信性を高めます

戦略⑧ 各施設や場所の有効活用により、メイン会場を中心に街全体が劇場となるよう演出や工夫を行います

戦略⑨ 企画運営委員・出演者・スタッフ・作品企画などに公募制を取り入れます

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

戦略⑪ 多様な文化芸術活動を選択できるような魅力ある事業を実施します

戦略⑫ 鑑賞者が文化芸術をより楽しめるためのアウトリーチ事業を行います

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

戦略⑭ 教育機関等と連携し、親と子、家族などで交流・参加できるような鑑賞型・体験型事業を行います

戦略⑮ 若者が参画できる環境整備を進め、若者が主導となり、企画・参画する事業を展開します

定性目標の達成状況

戦略①プロとアマチュアのセッションは、子どものためのジャズや学生との演奏などがあり達成できた。生のジャズ演奏を聴きながら、「ギャラリー空」での針金アートの鑑賞ができ、そのコラボレーションの効果はあり、目標は達成している。

戦略②針金アートとジャズコンサートのコラボレーションを取り入れるなど、良質な新作の創造への努力は評価でき、目標は達成されている。

戦略③地元のプレーヤーに演奏の場を提供することで「鳥取のJAZZ」文化を創造し、達成できた。

戦略⑤プロによるクリニック等の実施を通じて人材育成を行った点は評価できるが、PR不足も否めず、アートマネージャーの育成が十分とは言えない。

戦略⑥長期間にわたり複数会場を使用した開催形式をとり、多様なジャンルをジャズに結びつけた演出ができていたことから、目標は達成できた。

戦略⑦詳細なパンフレットが作成され、ブログやSNS等で情報発信されているので、県外に対する発信性はある程度評価できる。

戦略⑧とりぎん文化会館、わらべ館だけでなく、ギャラリーやカフェ、路上など様々な場所での演奏やイベントを行うことで達成できた。

戦略⑨出演者を公募することで達成できた。

戦略⑩アーケードの中やデパート前では、買い物客や道行く人が気軽にジャズに親しめ、子どもから高齢者まで楽しめるコンサートとなり、達成できた。

戦略⑪ ジャズとアートとのコラボレーションによる展示や映画の上映などを行うことができ、達成できた。

戦略⑫ アウトリーチ的な側面は随所にあった。静かな街中がジャズによって活気づいた日となり、達成できた。

戦略⑬ リズム楽器を使った子どもたちによる演奏もあり、幼児から小学生まで多数の子どもが演奏に参加できたので達成できた。

戦略⑭ 子どものためのジャズワークショップ&コンサートでは、子どもの楽器やコーラスとの協演があり、親子で参加でき、達成できた。

戦略⑮ スタッフに学生や若者の姿が多く見られ、達成できた。

成果と課題

【成果】

- ・市街地で開催するという発想が良く、初心者にも愛好家にも興味深く聴ける内容であった。路上での演奏はステージ上の演奏以上の迫力があり、幅広い年齢層の人がジャズを楽しむことができた。
- ・プロのジャズ演奏、ワークショップ、アート、ライブ演奏とプログラムも工夫され、様々なイベントはジャズに触れる第一歩として良い機会となった。
- ・地元のプレーヤーにとって演奏の場を与えられたことは、成果を発表する貴重な機会であり、若い人の育成や今後の活動意欲を高めることにつながる。
- ・観客アンケートの中には、毎年、毎月など定期的な開催を望む声が多数あった。
- ・普段人通りの少ない市街地が、賑やかな雰囲気となり、活気が感じられた。

【課題】

- ・潜在的な音楽愛好家などの人口はかなり多いと思われるので、今後はジャズをきっかけに様々なジャンルの音楽とのコラボレーションもできるのではないかな。
- ・PR不足は否めず、集客への努力については課題である。
- ・小さな会場、開催時間、比較的高額な入場料など、参加・鑑賞にはハードルが高い。
- ・1回のみで成果を求めるのではなく、回を重ねながら大きな動きにし、街の活性化や心豊かで活力ある社会の実現に向けていくことが必要である。

【感想】

継続的にジャズが聴けて、参加しやすいジャズコンサートがあれば、街おこしになる。団塊世代が退職を迎え、時間に余裕のある人が増えている今、音楽で街を元気にすることは可能かもしれない。

静かな鳥取の街に「ジャズがやってきた」数日間は、とても新鮮で心浮き立つ街となった。

**キラリ☆アートプロジェクト 日野町民ミュージカル第10回記念公演「きらりこの町」
～遠いむかしむかし、僕たちの町おこし～**

平成23年11月19日(土)・20(日) 日野町文化センター

執筆担当

松本 薫
村田 真弓

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

- 戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します
- 戦略② 良質な新作を創造するとともに、製作した作品の練り上げ(再演)を行います
- 戦略③ 伝統芸能や郷土芸能のみでなく、幅広く鳥取県の地域文化を継承し、創造する事業を展開します
- 戦略④ 鳥取県が誇る文化観光資源を積極的に活用し全国発信します

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

- 戦略⑤ 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成します
- 戦略⑥ 文化祭全体でアートマネジメント力を強化します
- 戦略⑦ 総合的な広報に加え、県外に対する発信性を高めます
- 戦略⑧ 企画運営委員・出演者・スタッフ・作品企画などに公募制を取り入れます

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

- 戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます
- 戦略⑪ 鑑賞者が文化芸術をより楽しめるためのアウトリーチ事業を行います

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

- 戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します
- 戦略⑭ 教育機関等と連携し、親と子、家族などで交流・参加できるような鑑賞型・体験型事業を行います
- 戦略⑮ 若者が参画できる環境整備を進め、若者が主導となり、企画・参画する事業を展開します

定性目標の達成状況

戦略①プロの和太鼓奏者「あすか組」が登場した。演奏がすばらしく、ミュージカルを盛り上げた点では達成できたと言える。ただし、作品全体との関連性が乏しく、いきなり出てきたという違和感もあった。プロを登場させることが、コラボレーションといえるのかという疑問が残った。

戦略②地元に着目した題材から作られた脚本で、大人から子どもまで楽しめる内容だった。ほぼ達成されたが、盛り込みすぎでストーリーがやや平板になってしまったのは残念である。

戦略③河童伝説、おしどり、鬼伝説など、地域に残る歴史的題材を使っていて、十分達成された。

戦略④文化観光資源の活用は達成された。しかし全国発信については、まだそのレベルに達していないと思われ、達成されていない。

戦略⑤10回目の公演ということで、出演者はじめ、アートマネージャー、ミュージカルを支える町民組織が育ってきている。達成された。

戦略⑥観客の受け入れ態勢もよく、外部への発信力が高まってきており、ほぼ達成された。

戦略⑦新聞などへの働きかけに加え、観劇ツアーを企画するなど、情報発信に力を入れた点で、目標はほぼ達成された。ただし、県外への発信は達成されなかった。

戦略⑧公募による出演者は小学生から大人まで幅広く、達成されていた。

戦略⑩3回の公演はほぼ満席で、託児所の設置、送迎バスの運行もなされた。料金も手ごろであり、目標は達成された。

戦略⑪日野町内外のイベントに参加したことから、目標は一部達成された。

戦略⑬出演者の多くが小・中・高校生であり、目標は達成されている。

戦略⑭町民ミュージカルということで、教育機関をはじめとする町ぐるみの支援体制があったと感

じられた。家族で観に来ている人も多く、達成された。

戦略⑮ 出演者、アートマネージャーなど、若者の手によって作られ、また若者の参加を積極的にうながす努力がなされていた。達成された。

成果と課題

【成果】

- ・地元日野町と深くかかわるテーマを取り上げ、希望のもてるストーリーになっていたこと、何よりも演じる子どもたちが一生懸命に生き生きと歌い、踊っている姿は、観る者に希望と感動を与えた。
- ・こうした活動を通じて、地域に誇りと愛着を持つ若者が育っていくのだろうと思うと、町民ミュージカルの意義は大きい。町民がミュージカルを楽しみにし、支えていることも、十年続けてきたことの大きな成果だと思う。
- ・これまで、地元密着型だったものを、広く県民に観てもらいたいということでとりアートに参加し、それに見合うだけの質をめざして練習を積み重ねてきたことがうかがえる。観客アンケートの感想も好意的なものが多く、主催者にとってはステップアップにつながったと思う。
- ・衣装なども、細かいところまで行き届いていて、観る者を楽しませた。
- ・小さい町でのミュージカルだけに、続け発展させていくには困難があると思うが、小さい町だからこそ、町民の期待も大きく、支援も受けやすい面もあろう。町の宝として、よりいっそうの質の向上をめざしてもらいたいと願う。今回、観劇ツアーが企画され、参加者は少なかったが、細やかな心配りが好評だった。小さな町の特性を生かし、ミュージカルが町の活性化につながることも期待したい。

【課題】

- ・専門家の評価でも指摘されていることだが、脚本をもう少し練って、テーマをはっきりさせてほしかったように思う。同じ動きが多く、演技にもう少し躍動感がほしかった。
- ・ミュージカルで一番大切な歌の部分では、多くの出演者は一定のレベルを担保していたが、そうでない出演者もあった。またセリフが聞き取りづらい箇所があったり、映し出される映像が鮮明でなかったことも惜しまれる。音楽に関して、10年の歴史があるのだから、そろそろ生の演奏で歌うことも考えてみてはどうだろうか。
- ・地域密着の題材は、町民にとっては感動できるが、町外の人にとってはどうだろうか。観客アンケートを見ると、町内および県西部からの人がほとんどなので、今回はそれでよかったかもしれないが、さらに活動の幅を広げようとしたときには、地元の題材を使いながらも、普遍性を持つミュージカルにしていく必要があると思う。

東部地区イベント「因幡にぎや街道 2011 ～アートはじける、ハートつながる！～」

平成 23 年 11 月 12 日(土)～13 日(日) とりぎん文化会館

執筆担当

角秋 勝治
前田 夏樹

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します

戦略③ 伝統芸能や郷土芸能のみでなく、幅広く鳥取県の地域文化を継承し、創造する事業を展開します

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

戦略⑤ 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成します

戦略⑥ 文化祭全体でアートマネジメント力を強化します

戦略⑦ 総合的な広報に加え、県外に対する発信性を高めます

戦略⑧ 各施設や場所の有効活用により、メイン会場を中心に街全体が劇場となるよう演出や工夫を行います

戦略⑨ 企画運営委員・出演者・スタッフ・作品企画などに公募制を取り入れます

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

戦略⑪ 多様な文化芸術活動を選択できるような魅力ある事業を実施します

戦略⑫ 鑑賞者が文化芸術をより楽しめるためのアウトリーチ事業を行います

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的な参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

戦略⑭ 教育機関等と連携し、親と子、家族などで交流・参加できるような鑑賞型・体験型事業を行います

戦略⑮ 若者が参画できる環境整備を進め、若者が主導となり、企画・参画する事業を展開します

定性目標の達成状況

戦略①鉄筋アート・ジャズ・学生とのコラボレーションがあり、目標達成の催しもあるが、一般的なレベルにはなお努力を要する。

戦略③社会人・学生・児童生徒にも、活動の場が与えられているが、創造的な事業展開は少ない。

戦略⑤～⑨ショーから音楽まで、幅広い企画に積極的な参加がみられたが、プロデュースなどの人材育成のアートマネジメント力や県外への発信力には及ばない。

戦略⑩・⑪世代を超え、多様な事業展開はあった。

戦略⑫アウトリーチとして、地域イベントなどに出向き、積極的なPRが行われた。

戦略⑬子どもが工作感覚で参加するイベントは、大いに喜ばれた。

戦略⑭「楽しい生け花」ステージのバックに、高校書道が出演して盛り上げたが、学校との連携はもっと増やしたい。

戦略⑮鳥大生・鳥取東高生・白兔養護の生徒など、若者の活躍が見られた。

成果と課題

【成果】

- ・スケートや着物ショーから、手踊りやダンス、尺八からクラシック音楽の演奏まで。ジャズは身近に、日本舞踊も伝統を知る機会になった。ワークショップの参加が多くなったのは、「因幡にぎやか街道」が根付いてきた証拠。子どもが活躍するステージは、高齢化社会に突入した現在に希望をもたらす。
- ・地区イベントは、まず気軽に参加して楽しく盛り上げるのが、第一のスタート。軽食を取りな

がら、気負わず鑑賞するコンセプトも良い。アンケートにも、記入したくなるような工夫があった。

- ・舞台進行はスムーズ。賑やかなステージをみている限り、鳥取県民にもこんなに積極性があったのかと、感心させられるほどである。これをバネに、粘り強い文化の創造と継承を願わずにはいられない。

【課題】

- ・多彩だが細切れで切り貼りの感があり、貫くものは何かと考えると極めて印象は薄い。鳥取で文化の名を冠して開く意義は何か。お祭りや発表会で事足りるのか、芸術祭としてのレベルアップや訴えを目指すのか。その位置付けははまだ定まらず、恒例行事ならば一本筋の通った主張や提案が欲しい。
- ・直言すれば「定性目標」はあっても、「事業目標」の意識は薄く、演者の楽しさが観客に伝わらなければ自己満足の域を出ない。チラシのデザインに、読みにくいものがあった。その意味でも地区イベントには、単に情緒的な「スローガン」ではなく、もっと明確な「テーマの設定」が必要であろう。県外にも発信可能な力を目指さない限り、鳥取文化のレベルアップは望めない。テーマ設定による意識改革が、大きな鍵を握っていると思われる。

中部地区イベント「ええじゃないか！中部 ～未来を奏でる文化のまち～」

平成23年10月15日(土)～16日(日) 倉吉未来中心

執筆担当

萩原 俊郎

吉野 立

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します

戦略③ 伝統芸能や郷土芸能のみでなく、幅広く鳥取県の地域文化を継承し、創造する事業を展開します

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

戦略⑤ 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成します

戦略⑥ 文化祭全体でアートマネジメント力を強化します

戦略⑦ 総合的な広報に加え、県外に対する発信性を高めます

戦略⑨ 企画運営委員・出演者・スタッフ・作品企画などに公募制を取り入れます

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

戦略⑪ 多様な文化芸術活動を選択できるような魅力ある事業を実施します

戦略⑫ 鑑賞者が文化芸術をより楽しめるためのアウトリーチ事業を行います

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

戦略⑭ 教育機関等と連携し、親と子、家族などで交流・参加できるような鑑賞型・体験型事業を行います

戦略⑮ 若者が参画できる環境整備を進め、若者が主導となり、企画・参画する事業を展開します

■定性目標の達成状況

戦略①地元の左官職人や和菓子職人など、多彩なジャンルのグループが出展したことで、達成されていた。メイン事業の「八賢伝」にからめた展示や飾りつけもあり、中部らしさ、倉吉らしさを生かした地域文化の心意気が感じられた。

戦略③伝統芸能や地域文化とは言い切れないかもしれないが、まちおこしの中で生まれた東郷地区の龍踊り、倉吉の歴史講談、民話の会など地域特性を生かした事業展開が多かった。

戦略⑥古来より茶道とともに定着した倉吉の和菓子職人の活用や「ふるさとの民話の集い」など文化資源を積極的に活用する一方、「とりたん（鳥取短期大学）のクリエイターたち」「保専ミュージカル」「未来を描こう、絵画コンクール」など、保育園から大学まで日ごろの地域の教育機関との連携が生かされていた。

戦略⑥⑦⑨音楽、ダンス、朗読、クラフトなど、多彩なジャンルの文化芸術サークルが参加し、運営にも積極的に参画していた。日ごろの連携の成果。

戦略⑩⑪⑫幅広い世代の参加者が会場で文化芸術を楽しんでいるものの、まだ限定的。地域のもっと多くの人に認知され、参加・鑑賞のすそ野を広げる努力を続けてほしい。

戦略⑬⑭⑮保専学生のステージや芸文祭を機に発足した中部初の少年少女合唱団など、次世代育成、教育機関との連携は達成。運営スタッフにも若い世代が目立つ。

■成果と課題

【成果】

- ベテランに交じって若い世代が前に出てステージやイベントの切り盛りをしている姿を見かけたのが好印象。キーワードハンターや和菓子づくり体験など、創意工夫を凝らした取り組みを今後も続けてほしい。

- 集客アップのため、会場の倉吉未来中心（アトリウム、セミナールーム、ホールプロテジー）に誘客と回遊性を生むゲーム性のある仕掛け＝会場内に隠された5文字のキーワードを集めるとくじ引きに挑戦できる「キーワードハンター」や、ワークショップ巡りの「スランプラリー」など＝を取り入れるなど、企画運営側の努力や工夫が感じられた。

【課題】

オープニングの龍踊りは客はほぼ関係者のみ、保専の歌やダンスのステージも客足は今ひとつで、残念ながら寂しい幕開けとなった。昨年のとりアートの取り組みの中で結成された中部少年少女合唱団「MIRAI」のコンサートあたりから、ようやく客も増えてきた。絵画コンクールの表彰式、多世代交流コンサートの時は、1、2階とも人が溢れた。結局、クイズやラリーがどれだけ成果につながったか確認してはいないが、親子参加、保護者や祖父母が見に来るイベントがやはり動員の大きな決め手ということか。単に事前宣伝や広報がまだ足りないという問題なのか、それとも「とりアート」という形＝フォーマそのものが、もう一般の県民の目からはインパクトを失い、あまり魅力ある催事に映っていないのか検証が必要。

【感想】

未来中心の玄関横と小ホール前にJAや地域グループ、飲食店による「グルメ横丁」が設けられ、人気は地元の職人さんたちによる和菓子づくり体験コーナーは列の並ぶ人気だった（もう少し出店を増やしてもいいのでは、という意見がある）。

セミナールームでのワークショップ（手づくり隊がやってくる＝なかでも「ピカピカどろだんご」は面白く話題になっていた）は、若いお母さんの姿が目立ったように思う。

会場の配置レイアウトは昨年よりはわかりやすかったが、食コーナーの位置はもう一工夫。倉吉未来中心はアトリウムはともかく、セミナールームは奥に引っ込んでしまって全体の流れや配置が見えにくい、ハンディのある会場なのでさらなる工夫が必要。

いろいろ工夫が加わり、毎年来る参加者もいる。企画運営委員も決して手を抜いていない。が、「県の、地域の芸術文化祭」という活気に至らない。運営側と参加者は楽しんでいるにしても、何が足りないのか考えるべきである。

西部地区イベント 「いつもの『まち』で『文化』する！」

平成23年10月22日(土)～23日(日) 米子コンベンションセンター、米子市公会堂ほか

執筆担当

田中 悦子

松本 薫

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します

戦略② 良質な新作を創造するとともに、製作した作品の練り上げ(再演)を行います

戦略③ 伝統芸能や郷土芸能のみでなく、幅広く鳥取県の地域文化を継承し、創造する事業を展開します

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

戦略⑤ 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成します

戦略⑥ 文化祭全体でアートマネジメント力を強化します

戦略⑦ 総合的な広報に加え、県外に対する発信性を高めます

戦略⑧ 各施設や場所の有効活用により、メイン会場を中心に街全体が劇場となるよう演出や工夫を行います

戦略⑨ 企画運営委員・出演者・スタッフ・作品企画などに公募制を取り入れます

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

戦略⑪ 多様な文化芸術活動を選択できるような魅力ある事業を実施します

戦略⑫ 鑑賞者が文化芸術をより楽しめるためのアウトリーチ事業を行います

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

戦略⑭ 教育機関等と連携し、親と子、家族などで交流・参加できるような鑑賞型・体験型事業を行います

戦略⑮ 若者が参画できる環境整備を進め、若者が主導となり、企画・参画する事業を展開します

定性目標の達成状況

戦略① オープニングの「米子八景」は異ジャンル間の意欲的なコラボレーションだった。また、映像フェスティバルではプロとの交流があったが、交流はコラボレーションではない。以上のことから、一部では目標を達成したと言える。

戦略② 「米子八景」における試みに再演による作品の練り上げの価値を感じる。目標達成。

戦略③ 伝統芸能のほかにも、町民ミュージカルの広報、「米子八景」への継続した取り組み、地域で文化活動をする人たちの発表などがあり、目標は達成されている。

戦略⑤⑥ 多数の参加者のステージ発表やブース展示などをうまくコーディネートしており、円滑な運営がなされていたことが評価できる一方、アートマネージャーの役割が不明瞭で負担が大きかったり、組織としての動きがいまひとつだったりという点もあり、目標達成半ば。

戦略⑦ イベントの詳細がわかるリーフレットの早期配布努力、ネットでの情報発信、全国からの応募を募った映像フェスティバルなど努力が伺えるが、集客につながってない面もあり、達成半ば。

戦略⑧ 会場を複数にすることに試みを感じたが、その会場どうしの連携が見えず、達成されていない。

戦略⑨ いずれも公募がなされており、十分目標達成。

戦略⑩⑪ 多様な企画があり、老若男女が楽しめる場となっており、実際に観賞者・参加者ともに子どもから大人まで幅広い年代の人が集っていたので、目標達成。

戦略⑫ プレイメントでのパフォーマンス、ワークショップの実施などがあったが、関心の薄い層や普段文化芸術に接しにくい層へのアウトリーチとしては弱く、あまり達成されていない。

戦略⑬ 伝統芸能、ダンス、映像作品、販売・展示コーナーへの学校単位での参加など十分達成。

戦略⑭ 高校生、専門学校生によるステージ発表や物品販売に教育機関との連携がみられた。また、親子で楽しめる事業もあり、ほぼ目標達成。

戦略⑮ 出演・食コーナーへの出店での若者参加が多くみられ、映像フェスティバルは若者が企画している。ただ、若者主導というのは難しい。以上のことから、やや届かない部分もあるが、ほぼ達成。

成果と課題

【成果】

- ・ 全国から応募のあった企画があり、鳥取から全国へ発信する機会のひとつとなった。
- ・ 「米子八景」を継続して再演していく中で創造性を高める試みが見られた。
- ・ 出演・食コーナーへの出店・ワークショップなどに若者の参加が増えた。
- ・ 複数の会場設定、ひとつの会場内での使い方など、まだ十分ではないにしても、場の設定の仕方にもマネジメント力の向上が伺える。
- ・ 西部地区の文化活動者の発表の場として定着しつつある。
- ・ 米子市公会堂に焦点を当てるなど、市民的に関心の高い企画を実施する視点が育ってきている。

【課題】

- ・ 複数の会場での企画実施は、観客の流れを考慮し、実施日時、会場間のつながりなど戦略を持って検討する必要がある。
- ・ 参加者数は目標の倍以上だったが、実際に会場にいた感覚としては少なく感じられた。目標設定を高くし、米子市周辺の市町村への広報の強化、会場入り口の案内による盛り上げ感などの工夫がほしい。
- ・ ホワイエを使ったステージは、ホールの入口という性質上、出演者、鑑賞者ともにあまり良い環境ではなかった。課題の一つ目に書いたことと一部重複するが、観客の流れと会場の条件とを考慮した場の設定のさらなる工夫が必要。

【感想】

二日間西部地区事業のメイン会場にいた印象は、大入り満員には遠いけれど、老若男女様々な人がやってきているな、ということだった。多くの人に文化・芸術に親しんでもらおうと多様な事業を展開するよう努力しておられる結果だと思う。今後は事業の目的を、より多くの人に多様な文化に触れる機会を作ることなど文化の裾野を広げる方向に絞って企画を展開してはどうだろうか。

第55回鳥取県美術展覧会

平成23年9月23日(金)～10月2日(日) 鳥取県立博物館

10月8日(土)～17日(月) 米子市美術館、10月22日(土)～31日(月) 日南町美術館

11月7日(月)～13日(日)、11月17日(木)～23日(水) 倉吉博物館・倉吉歴史民俗資料館

執筆担当

河合 晴美

角秋 勝治

■設定された定性目標及び戦略

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

戦略⑨ 企画運営委員・出演者・スタッフ・作品企画などに公募制を取り入れます

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

■定性目標の達成状況

戦略⑨ 県内在住者の公募美術展として定着しており、これを目標に創作活動に取り組む県民も多い。一方で、企画・運営などにどのように県民の意見が反映されているのかが、見えてこない。

戦略⑩ 県内の4ヶ所を巡回して展示を行い、世代や立場を超えて、誰でも身近に美術作品を鑑賞する機会が与えられ、達成されている。

■成果と課題

【成果】

- ・一般応募作はレベルが高く、各部門に共通して、県展にふさわしい緊張感が感じとれる。審査員の交代制などの成果が表れていると思われる。
- ・多くの県民が鑑賞できる巡回展の形をとることで、作家のモチベーションが上がり、また、鑑賞者は高いレベルの作品にふれることで目が養われる。ひいては、鑑賞者の中から新たな作家が生まれる可能性も期待できる。
- ・県展賞の「ライフー彷徨」を、高く評価したい。大胆な構図、風俗に流されない絵画としての造形化には、目をみはるものがある。
- ・陶芸や染織などの工芸部門は力作揃いで、楽しみながら鑑賞することができた。
- ・アンケート用紙が出品目録に挟んであり、アンケート用紙回収率アップのための工夫が図られていた。

【課題】

- ・応募作品が減少の傾向にあり、また、出品作家の顔ぶれにも大きな変化が見られず、マンネリ化が感じられる。指導者には、レベルアップのための協力を望みたい。また、新たな作家を発掘するためにも、県展賞が受賞者にとってステータスとなるような取り組みが必要なのではないか。
- ・審査の公平性を保つために、これまでの「5点数制」が妥当かどうか、再検討する必要がある。
- ・鑑賞者の数が余りにも少なく感じられる。例えば、県展賞受賞者の公開講座、一般入場者による作品の人気投票などの鑑賞者へのサービスの検討、広報活動の拡大など、裾野を広げるための多角的な見直しを期待したい。
- ・作品応募者拡大のために、インターネットからの申し込みを検討してほしい。
- ・一般には難しい書道作品に、解説や楷書の添え書きを付けて身近なものにできないか。

とっとり県陶芸の集い

平成 23 年 9 月 16 日(金)～20 日(火) 米子市美術館

執筆担当

河合 晴美

小谷 幸久

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

戦略⑭ 教育機関等と連携し、親と子、家族などで交流・参加できるような鑑賞型・体験型事業を行います

戦略⑮ 若者が参画できる環境整備を進め、若者が主導となり、企画・参画する事業を展開します

定性目標の達成状況

戦略① プロとアマチュアの作品が発表され、いろいろな作品を楽しむことができたが、ただ、並べて展示しただけで、コラボレーションと言えるのかは、疑問も残る。異業種間の交流がどのように行われたのかは、具体的に把握することはできなかった。

戦略⑬ 子ども達の作品を展示するスペースが用意されていたようだが、初日の午前中の時点で何も置かれず、空白のままだった。期日までに搬入できなかった不手際があったと思われる。

戦略⑭ 主宰者による実演が行われ、来場者に、ろくろで作品を作る工程を分かり易く説明していた。また、体験の時間も設けられるなど、鑑賞者参加型の環境が整えられていた。教育機関等との連携、親子・家族との交流という点では、達成されていたとは言いがたい。

戦略⑮ 若者が主導して企画・参画できる環境整備がなされていたかどうかは、読み取れない。

成果と課題

【成果】

- ・ 昨年指摘された作品のクオリティーや展示の仕方に、かなりの改善点が見られた。力作が多く、作者の陶芸に掛ける意気込みのようなものが感じ取れた。
- ・ 1日平均150人くらいと、多くの鑑賞者が訪れた。

【課題】

- ・ 定性目標を見えやすくするためにも、出品者の年齢、教育機関との連携の具体例、若者が何を企画したのかなどを、明確にする工夫が必要。
- ・ 1日2回という体験コーナーは、もっと回数を増やし、PRも必要だったのではないかな。
- ・ 作者のお話が聞ける、ギャラリートークなどがあると良い。また、作品とネーミングの関係なども分かると、より鑑賞しやすい。
- ・ オープン日までに作品が全て搬入されておらず、改善が必要。

【感想】

- ・ 戦略⑬⑭⑮に関しては、具体的な取り組みや成果が認められず、本当に戦略達成を目指していたのかという疑問が残る。目標設定の仕方を検討しても良いのではないかな。

執筆担当

岡村 洋次

—

■設定された定性目標及び戦略

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

戦略⑤ 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成します

戦略⑥ 文化祭全体でアートマネジメント力を強化します

戦略⑨ 企画運営委員・出演者・スタッフ・作品企画などに公募制を取り入れます

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

戦略⑮ 若者が参画できる環境整備を進め、若者が主導となり、企画・参画する事業を展開します

定性目標の達成状況

戦略⑤⑥⑨ 企画・運営への県民参加はスタッフ、出演者の公募制採用で一応達成。内容的には物足りない。

戦略⑩ 世代を超えた鑑賞の環境整備は、取り組みはほぼ達成。鑑賞者の開発、世代間交流などの取り組みも評価できるが、結果はもの足りない。

戦略⑬⑮ 次世代活動者の育成は高校生バンドの出演もあり、運営面など若者参加は評価できる。

成果と課題

【成果】

- ・全体として毎年継続開催の良い面、悪い面が出ている。良い面としては、ノウハウの蓄積により運営がスムーズ。一定のレベル以上の出演者のステージは安心して見ることができる。
- ・近年、本県ではクラシックやオーケストラ奏者育成に力を入れ、人を育てようとしているが、「音楽日和」に出演するジャンルは「遊び」と捉えられているのか、民・個人の努力が中心。ステージに立つことが練習でありレベルアップにつながる。その意味でも、この事業を毎年開催することは大きな意味がある。

【課題】

- ・進行など「例年通り」のスタイルの踏襲で、昨年も気になったバンドの入れ替わりの間が改善されていなかった。饒舌な司会者のインタビュー。自分たちの乗りを大切にしている雰囲気はわかるがスマートさが足りない。演奏のみでなく、バンドの紹介など会話も含めてコンサートの演出、雰囲気作りを考えることが必要。
- ・相変わらず出演者のレベルに差がある。出演者探しに苦労しているのではないかと思われるが、いいステージをつくるために事前の練習を十分してもらうなどスタッフの意識改革が必要。
- ・やはり集客の少なさが気になる。運営者には、いかに集客するかを念頭に置き、とりあえず採算ベースで良しとしないで、内容を充実し多くの人を集める努力をお願いしたい。
- ・マンネリに陥らないで、常に新しい感覚でコンサートの運営をしてほしい。この分野の音楽は、鳥取の今の若者の「遊びごころ」「楽しみ」を反映するものなので、毎年新たな工夫をし面白さの発信をしていかないと、一部の関係者の自己満足の場になってしまう。

【感想】

観客の審査による最優秀バンド賞など賞を贈るのはどうだろう。そうすれば、ひいきのバンドが終わったらさっさと帰るということもなくなるのでは。レベルアップのためにぜひ考えてみてほしい。

やはり集客が肝心。有料イベントなのでよいゲストが来れば観客も増える。運営費に限りがあるので運営側としては冒険はできないため、二の足を踏むのかもしれないが、超有名である必要はない。毎年ゲストのジャンルを変えるなど幅広い人たちに楽しんでもらう工夫が必要。ゲスト選びもマネージメント力育成につながる。

執筆担当

村田 真弓

大屋 由紀

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

戦略⑪ 多様な文化芸術活動を選択できるような魅力ある事業を実施します

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑭ 教育機関等と連携し、親と子、家族などで交流・参加できるような鑑賞型・体験型事業を行います

戦略⑮ 若者が参画できる環境整備を進め、若者が主導となり、企画・参画する事業を展開します

■定性目標の達成状況

戦略① 定性目標は一応達成されているが、プロの演奏としてどうであったか。合同演奏で本当に刺激になったかは疑問。実施者たちもその旨をアンケートに記している。

戦略⑩ 小学生以下を無料化し、親子連れの入場を容易にしているが、会場にはその姿がほとんど見られず、広報活動がなされていないとしか思えない。

戦略⑪ 多様な演奏形態の体験ができるとしているが、変化、良さが感じられないように思える。一生懸命さは分かるが、観客にもっと思いを伝えてほしい。

戦略⑭ 中・高生の観客が非常に少なく、教育機関との連携ができているとは言い難い。

戦略⑮ 若者が主導して企画・参画できる環境整備がなされていたかどうかは、読み取れない。

■成果と課題

【成果】

- ・ 社会人、大学生との交流の場となって、活動の一つの目標にしているのはよい。
- ・ プログラムに、演奏者の紹介が詳しく載っているのは、活動に参加したいと思った人の後押しになって、活動の広がりのおかげになっている。

【課題】

- ・ 全体的に、定性目標の達成状況で記したように、満足しがたいものがある。
- ・ 互いの演奏を聴き、今後の技術向上に役立てさせてほしい。中高生に一般の演奏は素晴らしいと思われる演奏を心がけてほしいと願う。
- ・ プロとのコラボレーションについて、本当に自分たちの為になるか、観客が喜ぶか、ゲスト選別に気をつけてほしい。
- ・ 自分たちの練習成果の場である。あまりに観客が少ないのは演奏者たちが一番寂しいはず。観客動員について広報活動の努力が必要。家族、知人、関係者にとどめないで「一生懸命演奏しますので聴きに来てください」と呼びかけてほしい。他力本願では駄目ではないでしょうか。
- ・ 実施者（演奏者）が「とりアート主催事業であることを知らない」とアンケートに記入しているのは驚きである。補助金があるからと考えてマンネリ化した大会にならないよう、大会のあり方を見直してほしい。
- ・ 会の運営について、舞台転換が悪く、時間がかかり過ぎており、観客を無視している。何か演出が必要である。

【感想】

- ・ 入換えの時、スタッフ、出演者共に足音がしないのは好感が持てた。
- ・ 選曲に関して、誰もが知っている曲をもう少し取り入れてほしい。

第 35 回鳥取県川柳大会

平成 23 年 10 月 15 日(土) 米子コンベンションセンター

執筆担当

吉野 立

田中 悦子

■設定された定性目標及び戦略

定性目標③ 市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

定性目標④ 教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

■定性目標の達成状況

戦略⑩ ジュニアの部から当日の投句など、幅広い世代の参加を意識されている。また、太鼓の演奏を間に含めるなど参加者への多彩な芸術文化に触れる機会を作り出す工夫がなされており、目標は達成された。

戦略⑬ ジュニアの部の全国公募で 303 の応募があったこと、県内の小中高生の作品をあつめ選句、表彰するなど次世代への取り組みがなされている。目標達成。

■成果と課題

【成果】

- ・当日の参加者の投句や事前の投句を含め 191 人の投句者があった。県内全域からの参加と島根県からの参加もあり評価できる。
- ・冒頭の会長挨拶は、短歌、俳句との合同の会の報告、アンケートの依頼など、とりアートの活動や主旨を踏まえたもので大変良かった。
- ・川柳の投句や表彰だけでなく、太鼓の演奏を間に含めるなど参加者が多彩な芸術文化に触れる機会を作り出すことは、他ジャンルとの連携として評価できる。
- ・全体の進行、ホールに会場案内人が配置されていたこと、当日パンフレットの他、観光案内、駅時刻表など参加者への配慮ができており好感が持てた。運営もスムーズであった。

【課題】

- ・初心者向けの川柳教室などを企画して新しい参加者を誘う、インターネットでの投句を可能にする、川柳に親しむ講座を持つ等の工夫が欲しい。併せてマスコミ活用も考えたかどうか。
- ・会場内で携帯電話の音が鳴ったり、ホール入り口のドアが締め切ってなかった。また、午後から参加した人から受付に資料がなかったなどの声があった。一層の運営努力を求めたい。

鳥取県和太鼓連盟コンサート「和太鼓ふるさとの響 2011」

平成 23 年 10 月 16 日(日) 南部町立ふるさと交流センター

執筆担当

田中 悦子

小谷 幸久

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

戦略⑤ 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成します

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

■定性目標の達成状況

戦略① 開催地の郷土芸能に出演してもらっており、開催地との連携という点では一部達成。

戦略⑤ スムーズな運営に見えるコンサートだったので、その点では人材が育っているのだろうが、広報活動に不十分さを感じる。以上のことから、一部達成。

戦略⑩ いつも開催される地域ではないところでの事業実施は意味がある。また、子ども連育成にも努力されており、目標は達成されている。

戦略⑬ 青少年が主体のグループがいくつかあり、目標は達成されている。

■成果と課題

【成果】

- ・都市部ではない地域での開催により、普段列車等では出かけてまではコンサートなどには行かないであろうと思われるような客層がみられた。これをきっかけに、このようなコンサートに出かけてみようかという意欲付けになったのではないかな。
- ・意欲的に活動している青少年のグループの発表機会になっており、今後の活動への励みになっている。互いに交流しながら刺激しあい、18年続けてきた成果ともいえる。

【課題】

- ・せっかくの少し中心部から外れた場所での開催だったが、観客が少ないのが残念だった。同じ日に大きなスポーツ大会があったようだが、そのような町をあげての大会があつて集客の見込みが立たないのであったのなら、日程の決定には様々な要素が絡んでいるとは思いますが、最初からそのような日は外すべきだ。または、その大会とコンサート両方に参加（鑑賞）しようと思えば、余裕を持って参加できる開演時刻にし、そこでチラシを配るという方法も考えられる。
- ・中高生の観客が少なかったのも残念だった。この世代のすばらしい演奏があったので、その姿を見せることができれば、自分もやってみたいと思う者も何人かはいたに違いない。地元の教育委員会、学校とも連携して宣伝等をしていけたらと思う。

【感想】

もっとしっかりコンサート開催の宣伝をしてほしい。ぜひ、多くの人が観客になり、またそこから演奏者も育ってほしい。

また、ステージ看板を吊るすなど、すばらしいコンサート内容にみあうよう、会場の設営にも一考の余地があると思う。

執筆担当

小谷 幸久

水田 一美

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します

戦略② 良質な新作を創造するとともに、製作した作品の練り上げ(再演)を行います

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

戦略⑤ 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成します

戦略⑥ 文化祭全体でアートマネジメント力を強化します

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑭教育機関等と連携し、親と子、家族などで交流・参加できるような鑑賞型・体験型事業を行います

定性目標の達成状況

戦略① コラボレーションが出来ていたかどうかは定かではないが、各種のイベントがあり、異業種との連携は取れていた。

戦略② 子どもを惹きつける様は見えたが、練り上げは充分ではない。

戦略⑤ 年齢層も広がりが見え、若者が作品作りに参画しているように見える。

戦略⑥ 回も重ねることにより経験も蓄積され、マネジメント力は付きつつあるが、充分とは言えない。

戦略⑩ いろいろな催しがあり、さまざまな人がどこかで楽しめる企画になっていて、達成されている。

戦略⑭ 教育機関と関係のある会場であり、多くの子ども連れの参加があり、達成できた。

成果と課題

【成果】

- ・保育園や幼稚園をターゲットに宣伝しており、チラシを手にした親子・祖父母を多く見かけた。
- ・多くの参加者に対し会場全体を活用したプログラムで、参加者の満足度は高いと思う。
- ・どのイベントも未就学児に焦点を当て鑑賞する雰囲気作りが出来ていて、子どもの反応を上手に取り込んだ運営は良かった。
- ・会場を児童文化センターに選んだことが、このイベントの効果を高めている。

【課題】

- ・子どもの惹きつけ方の手法がどのイベントも同じに見えた。未就学児の惹きつけ方はそんなに多くないかも知れないが、間の取り方、声の表情など更なる工夫が望まれる。
- ・開催時間ぎっしりのイベントであった。それぞれが選択すればいいと言うものの、せめて30分位の昼休憩があっても良い。

【感想】

幼い内から演劇や紙芝居などの文化に触れる機会があることは、情操豊かな人作りに繋がる。今後も息の長い活動を期待する。

参加者(数)に見合ったほどよい空間で、子ども達の楽しそうな声が溢れ、賑やかであった。

第40回鳥取県短歌大会(第16回鳥取県民短歌賞)

平成23年11月6日(日) 琴浦町生涯学習センターまなびタウンとうはく

執筆担当

松本 薫

河合 晴美

■設定された定性目標及び戦略

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

■定性目標の達成状況

戦略⑩歌人会総会は別として、歌会・講演会・表彰式は、年齢や短歌を作っているか否かにかぎらず、だれもが参加できる場が用意されていた。入場料も無料であり、目標は達成された。

戦略⑬今年も小・中・高校生から短歌賞への応募が多数あった。その数は昨年よりやや減っており、特に高校生の応募が1校3首なのは寂しいが、各学校へ事前に応募用紙を送るなど配慮がなされていて、目標は達成されている。

■成果と課題

【成果】

- ・歌会・総会・講演会・表彰式という流れがスムーズで、よく準備された大会だった。歌会に参加する方たちは経験者がほとんどだが、初めて参加しても違和感がないように、初心者にも配慮されていた。
- ・小林氏の講演は、鳥取の人物に焦点をあてた話で、とても面白く聴くことができた。
- ・表彰式では、表彰を受ける子どもたちのうれしそうな顔が印象的だった。常連の子もいるようで、こうした試みが、短歌人口の裾野を広げ、若い人の育成につながっていると感じられた。
- ・選ばれた短歌はすばらしいものが多く、素人ながら、鳥取県の短歌のレベルは高いと感じた。
- ・表彰式に平井知事を招くなど、会を盛り上げる努力がされていた。
- ・主催者あいさつでとりアートのふれたり、看板に大きくロゴが描かれるなど、とりアートに参加しているという意識が高い。

【課題】

- ・講演の参加者が少なく、講師の方が気の毒な気がした。応募数を見ても、短歌愛好者はかなりの数いるはずなので、せっかくの機会を生かしてもらおう呼びかけが必要かと思う。とくに30代、40代の参加をうながすような企画を望みたい。
- ・小・中学生の応募は多いが、高校生は極端に少ない。応募用紙を送るだけでなく、直接先生方をお願いする必要もあるのではないだろうか。高校では、その手の応募案内がけっこう来るため見過ごされてしまいがちであるが、国語では短歌も学ぶので、創作の機会はあると思う。

【感想】

- ・子どもたちの歌会というのがあるのもいいのではないかな。
- ・表彰式には入賞者の家族も参加するので、表彰式のあとに講演を持ってくれば、参加者が増えるのではないかな。(途中退出者が増えるという懸念もあるが)。

2011 ヤングピアニストコンサート

平成 23 年 11 月 13 日(日) 米子市文化ホール

執筆担当

水田 一美

田中 悦子

■設定された定性目標及び戦略

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

戦略⑤ 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成します

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

定性目標の達成状況

戦略⑥会場運営やプログラムの進行、ゲストの選定など、コンサートそのものの運営はスムーズであり、9回を重ねることで一定のマネジメント力を持つ人材の育成という点では目標達成されている。一方で戦略⑩との関連もあるが、集客努力と具体的な方策については実施者アンケートでも記述されているように広報活動の活発化など一層の努力・工夫が必要である。

戦略⑩鑑賞者は、出演者の父母を中心に出演者と同年代の若者から祖父母世代まで広範囲であるという点では具体的な取り組みの成果として目標達成されているが、身内以外の観客が意識されていないように思われる面が見受けられる。「立場を超えて誰もが」という目標に対しては戦略⑤と関連して努力される必要がある。

戦略⑬コンサートの趣旨そのものが、県内のジュニアピアニストたちの日ごろの練習成果発表の場であり、目標は十分達成されていた。

成果と課題

【成果】

- ・前回と比較し参加者は増えており、集客努力はある程度評価できる。
- ・県内それぞれの先生のもとで研鑽を積んでいる者同士が一同に会して鑑賞しあうことで、生徒同士、指導者同士、お互いにより刺激となったことと思う。
- ・コンクール以外の一般聴衆を観客としたコンサートへの出演は機会が少ないため、演奏者にとってはよい経験になったと思われる。
- ・このコンサートの演奏者たちと同世代の優れたピアニストを特別ゲストに招いたことで、県内のジュニアピアニストたちにとっては身近に目標とできる存在を知り今後の一層の励みとなったのではないかと。また、観客にとっては特別ゲストのようなピアニストを地元から育てたいというジュニアピアニスト育成に対する支援を広げる土壌づくりの一助になったと思われる。
- ・今回で9回の上演実績のあるコンサートであり、この公演に出演することが県内でピアノを学ぶ子供たちの大きな目標となっていることや、継続していく中で奏者同士の交流も生まれている。

【課題】

- ・集客努力は認めるものの、観客のほとんどが演奏者とその身内で占められているというのが実情のようであり、一般客を招くための広報活動の工夫や具体策がなされるべきである。
- ・コンサートの運営・内容について、一般聴衆を意識した、楽しませ満足させる工夫が欲しかった。

「ダンスの日」記念ダンス交流会

平成 22 年 11 月 23 日(水・祝) ゆうゆう健康館けたか

執筆担当	浜田 あけみ
	横野 洋子

■設定された定性目標及び戦略

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

■定性目標の達成状況

戦略⑩部外者に広く開かれていたか少々疑問。チラシには当日の日程、講師の氏名などの情報がなく、興味を引く工夫が足りない。そのほかにも十分な広報がなされていたとは言いがたく、参加者は主催者と直接または間接的に接触のある者に限られていた印象がある。会場の選定にも難あり。誘導も工夫されていなかった。結果、知っている者しか参加できないイベントとなった。よって鑑賞者の開発と拡大への取り組みは不十分と言わざるを得ない。

戦略⑬主催者挨拶の中で、日本ボールルームダンス連盟がボールダンスのオリンピック種目採用へ向けて精力的に活動をしていること、教育委員会への働きかけにより義務教育の体育の授業に採用されたこと等が紹介された。また、ダンス教室生徒である若年者の競技披露の時間が設けられており、子供や若者の体験・実践の場を確保する工夫も見られた。ゆえに部分的には達成していたと評価できる。

しかしながら、教育委員会との連携については、まだやれることがあるのではないかと。義務教育での採用が決定されたのであれば、体育教師をはじめ教員や教育委員会のメンバーに参加を呼びかけ、ダンス指導者のアピールの場に来たのではないかと。次年度以降の取り組みに期待したい。

■成果と課題

【成果】

- ・県内のボールルームダンス愛好者が一堂に会して交流できていた。
- ・全国统一振付の伝達講習が行われ、プロのダンサーによるレベルの高いレクチャーが行われた。
- ・主催者挨拶により、ダンス競技の現状や問題点、未来への展望等がしっかりと参加者に伝えられ共有される場となっていた。
- ・参加者の平均年齢は高めであったが、それぞれの体力にあわせて踊ることで、健康維持増進にもつながる。

【課題】

- ・内輪だけで楽しんでいる印象。全く初めての参加者にどう映るかという視点がない。今後、義務教育に取り入れられることでボールダンスに興味を持つ若年者が増えることも予想される中、その興味の芽をいかに育て、次世代の担い手につなげていくか。このままの「交流会」で止まっていて良いはずがない。学校教育卒業後から次の受け皿となるべく、組織を上げての工夫が必要となるはずだ。

【感想】

ダンスを始めるきっかけとなるダンス体験コーナーなどがあればなお良い。やさしいステップ等を教え、その場で少しでも踊れるようになれば、競技人口の増加につながるのではないかと。

三流合同謡曲仕舞大会

平成 23 年 11 月 25 日(金) 米子市文化ホール

執筆担当

吉野 立

小谷 幸久

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略③ 伝統芸能や郷土芸能のみでなく、幅広く鳥取県の地域文化を継承し、創造する事業を展開します

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

戦略⑪ 多様な文化芸術活動を選択できるような魅力ある事業を実施します

■定性目標の達成状況

戦略③流派の異なる三つの流派が合同で伝統芸能の継承としての取り組む意義は評価できる。

戦略⑩⑪

- ・参加者は30名、若い人の鑑賞者はほとんど見受けられなかった。世代や立場を超えた取り組みにはなっていない。
- ・午後2時開始となっているにも関わらず、それまでの有志による発表会とのけじめが明確ではないなど、とりアート事業としての位置づけが弱かった。
- ・素謡、仕舞、独吟、連吟、舞囃子など多様な伝統芸能を披露されている。

■成果と課題

【成果】

- ・流派の違う3団体が合同で伝統芸能の継承に取り組むことに意義があると評価される。
- ・ホワイエに、県内の方の制作された能面などが展示されており、大会取り組みの多様性が感じられた。

【課題】

- ・それぞれの流派の発表会としての域を脱していない。
- ・伝統芸能の継承者や鑑賞者の開発と拡大は難しいとは思いますが、出演者が周りの人に参加を呼びかける、謡曲仕舞に親しむ工夫などする動きが感じられる大会にして欲しい。
- ・プログラムなどの演目に解説を入れるなど鑑賞者が楽しめる、親しめる工夫があれば伝統芸能の伝承にも繋がるのではないかな。

第9回鳥取県民謡まつり

平成23年11月27日(日) 米子市淀江文化センター

執筆担当

小谷 幸久

水田 一美

■設定された定性目標及び戦略

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

戦略⑮ 若者が参画できる環境整備を進め、若者が主導となり、企画・参画する事業を展開します

■定性目標の達成状況

戦略⑩ 昨年より児童生徒の参加が増えていたように思う。中年層の方も見受けられ、出演者も鑑賞者も年齢層としては混在しているように思われた。その観点で目的は達成されている。

戦略⑬ 鉦・太鼓・仔牛役・踊り手などに児童生徒が活躍していた。微笑ましい限りです。より一層もり立てて欲しい。

戦略⑮ 町で児童生徒を取り込んだ活動を実践しているところもあり素晴らしい取り組みもあった。しかし、若者が主導となる取り組みまでは、読み取ることは出来なかった。

■成果と課題

【成果】

- ・「民謡は心のふるさと」と言われるほど根強い人気を伺わせ、熱気が伝わってくるステージであった。
- ・工夫を凝らした楽しい演目や、東日本大震災の復興を意識した演目に取り組み、集客は勿論のこと、観客の興味関心を引き込む、努力や工夫が感じられた。
- ・昨年より児童生徒の参加も増え、微笑ましく感じた。
- ・県下三地区を回ることにより民謡の魅力を県民に感じてもらえる機会になったと思う。
- ・ステージの転換もテキパキとなされ、進行もスムーズで鑑賞しやすかった。

【課題】

- ・昨年と同じ演目もあり、それはそれでいいのだが、マンネリ化に陥らない工夫も必要だと思った。
- ・運営自体大変だと思うが、毎年地区を換えて実施したり、市内にとどまらず、郡部にも会場を求められれば普及の効果が上がるのではないかと。それを望む県民も多いのではないかと。

【感想】

看板・プログラム・チラシなどで鳥取県総合文化祭主催事業との位置づけもしっかりアピールしていただいていた。欲を言えば、ステージ看板にも「とりアート」のロゴマークを記してほしかった。よく目立つところなので「とりアート」の認知度に貢献できたのではないかと。

第16回鳥取県俳句大会

平成23年11月27日(日) さざんか会館

執筆担当

横野 洋子

浜田 あけみ

■設定された定性目標及び戦略

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します

定性目標の達成状況

戦略⑩ 子ども（小・中学生）から大人まで作品の応募が多く、目標はほぼ達成している。当日投句もあり、一般の参加者も俳句作りを体験できた。また、俳句の指導コーナーが設置され、初心者も投句できるよう配慮されていたので達成できた。

戦略⑬ 小・中学校の子どもたちの応募作品が「鳥取県俳句大会作品集」に1850首掲載されている。子どもたちに俳句を作る機会と発表の場を与える一定の役割は果たしている。教育機関との連携も見取れ、次世代育成の努力は評価したい。また、入賞作品だけでなく応募作品を全て掲載することで、応募者の作品作りへのモチベーション維持を期待できるだけでなく、他の小・中学生の今後の俳句づくりにも役立つと思われ、目標達成された。

成果と課題

【成果】

- ・募集句は、子ども俳句と一般俳句があり、子どもたちの作品がたくさん句集に掲載されていた。子どもたちの俳句への関心を高める上で効果がある。
- ・午前中に席題（「木の葉」、「冬霞」のいずれか）で参加者が投句し、午後には選句された作品がその場で発表され、77首の中から選ばれた上位5名が表彰された。表彰者は勿論、参加者の今後の創作意欲につながる。

【課題】

- ・参加者の熱意や熱気は感じられるが、ある程度句会の予備知識がないと楽しめない運営のように感じる。開催者が「句会」に対する一つの型で運営されているのであろうが、俳句人口の裾野を拓くためには、イベントとしての見せ方の工夫が必要ではないか。句会としてのレベルを保ちつつ、俳句の魅力をアピールし、自分も参加してみたいと思わせる工夫が必要である。
- ・俳句の指導コーナーは初心者にとっては良い企画なので、当日のプログラムの中で紹介したり回数を増やしたりして、より充実したものにする工夫が必要である。
- ・誰でも投句できるようにするには、投句料を少し安く（今年は1000円）してはどうか。

【感想】

参加者のご高齢の方が多く、高齢化社会に相応しい大会の一つであると感じた。高齢者が自信を持って生き生きと暮らすために、高齢者の得意なことを取り上げる大会等が増えていくと、高齢者の生き甲斐づくりに貢献できるのではと思う。

オペラ「窓 ウィンドウズ」

平成 23 年 12 月 3 日(土)・4 日(日) とりぎん文化会館小ホール

執筆担当

角秋 勝治
浜田 あけみ

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します

戦略② 良質な新作を創造するとともに、製作した作品の練り上げ(再演)を行います

定性目標③市町村と連携し、県民誰もが文化芸術を楽しむ感性を養い、県民一人ひとりが文化芸術を支援する環境を醸成し、鑑賞者の開発と拡大を図ります

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

定性目標の達成状況

戦略①演出・作曲・演奏のプロと、地元の歌手や学生の合唱とのコラボレーションは達成され、現代社会を象徴する上質のオペラになった。郷土の力で、さらに再演を目指してほしい。

戦略②現代の「孤独」と「環境」をテーマにした、新作への取り組みを評価したい。

戦略⑩三つの異なる「窓」によるオムニバスの3部構成は、現代に警鐘を鳴らす普遍的な作品。500席はほぼ満員で、これは「鳥取オペラ協会」の実績と県民の期待でもあろう。

成果と課題

【成果】

- ・現代生活を覆うパソコンなど、身近な環境から発生する閉鎖的な疎外感をしみじみと、あるいはコミカルに訴えた。台本・演出の中村敬一が「すっかり埃をかぶって」しまったオペラを、「わくわく、どきどきする舞台」にして、「新しい発見を与えられる作品を」と願う意図は明確。作曲家・新倉健の変拍子と不協和音が炸裂し、指揮の大倉智弘と出演者やスタッフは新作オペラに果敢な挑戦をした。
- ・一つ目の「窓」は、パソコンやインターネットの落とし穴を描くが、少々欲張りすぎて短絡的で直截すぎる。二つ目の「窓」は、都会と地方に離れた娘と母が、凶らずも生じた心の溝を切々と歌い上げて、リフレインも効果的で幅広く訴える情感があった。三つ目の「窓」は、興味と欲望にかまけて鏡に入り変わられてしまう物語で、ユーモアと毒気のセンスが光る。敷居が高いといわれるオペラを、身近なものにして、地元プロモーションの力も発揮した。

【課題】

- ・プロとアマチュアの共演は成功したが、中央の演奏家に頼らなければならない現実が厳然として残る。演奏家の育成が課題。合唱の仕上がりもいま一つ。
- ・「窓」は外界を切り取り、開かれた場所であると同時に、外界から身を守る装置でもあるが、これらの効用が閉塞状況にあるのが現代の悲劇といえよう。その「窓」の機能を巧みに使い、「パソコンのディスプレイ」「都会の高層マンションの窓」「独り暮らしの部屋の鏡」と、三つの変容で象徴したのはまさに今日的な設定だ。

しかし、総体的にもう少しシンプルで、その分もっと大胆な新しい音の発見があってもよいのではないかと。「思いっきり窓を開けはなそう。きっと、いつもと違う景色が広がるはずだ」という合唱が、全体のテーマを補完していた。この地で生まれたオペラは、鳥取の「宝物」である。仕上がりはまだ試演段階だが、再演でより高い完成度を目指し、鳥取の音楽界が次の「窓」を開けることを期待したい。

県民による第九倉吉公演

平成 23 年 12 月 25 日(日) 倉吉未来中心大ホール

執筆担当

大屋 由紀

小谷 幸久

■設定された定性目標及び戦略

定性目標①鳥取県独自の地域文化を継承し、発展させるとともに、新しい文化芸術を創造、育成し、県内外に向けて発信します

戦略① アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します

定性目標②県内の芸術文化の向上をめざし、文化祭の企画、運営、創造活動への県民の積極的な参画を促します

戦略⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます

定性目標④教育機関等との連携を図り、教育・文化活動者の積極的参加協力によって、次世代を担う子どもや若者が文化芸術を体験・実践する場を提供します

戦略⑭ 教育機関等と連携し、親と子、家族などで交流・参加できるような鑑賞型・体験型事業を行います

定性目標の達成状況

戦略①プロの指揮者やソリストを迎えたことでレベルの高い演奏となり、芸術性の向上につながっていた。

戦略⑩出演者として高校生も参加しており世代を超え親しめる機会となっていたが、もっと若い人が見に来ると良い。

戦略⑭演奏の点に関しては多くの高校生が出演しており、教育機関との連携が図られていたことは評価すべきだが、鑑賞の点に関して親子連れをあまりみかけなかったので達成とは言い難い。

成果と課題

【成果】

- ・多くの高校生が参加しており、ベテランの声、ソリストの声と上手く合わさり良い合唱であった。
- ・前半に「天地創造」を演奏したことで、メインの合唱へ向かう良い雰囲気作りに貢献していた。
- ・合唱団やオーケストラの演奏から出演者の熱意が伝わった。

【課題】

- ・合唱団の人数が少ないように感じた。演奏にメリハリのある迫力を出すためにも人数の拡大が必要である。また、ステージ上のばらつき感も改善されるのではないだろうか。
- ・譜面を持つのであれば、全員が持ち統一させるべきである。
- ・オーケストラの演奏に関して、テンポの変わり目など細かい部分で不安定さが目立っていた。出演者を含めた会場にいるすべての人が満足できるよう努力してほしい。
- ・出演者の出入りでは、もっと自信を持って堂々とすべきである。最初から最後まで「演じ手」であることを意識する必要があるのではないだろうか。
- ・観客席の中央の指定席がかなり空いており、気になった。事前に把握し策を考える必要がある。
- ・観客動員に関して、当日悪天候であったことを差し引いても、非常に少なかった。もっと広報に力を注いだり、入場料の設定金額を下げたりするなど様々な解決策を考えていくべきである。

【感想】

- ・パンフレットに曲の説明があり、わかりやすかった。
- ・より良い演奏になるよう試行錯誤を続けてほしい。

VI 専門家評価

主な事業について、専門家による芸術性・マネジメントなど多様な観点からの評価を実施した。(専門家による評価を原文のまま掲載)

メイン事業 「八賢伝」

平成 23 年 10 月 16 日(日) 倉吉未来中心大ホール

演劇評論家、大阪芸術大学短期大学部准教授 九鬼 葉子

前提として・・・

事業評価レポートを作成するに当たり、前提として申し上げるべきことがある。私は本来あまり辛口の批評は書かないほうではあるのだが(成果が上がらなかった舞台については、活字にする必然がないと考え、書かないからでもあるが)、今回は、辛口のレポート内容となるだろう。意欲的な企画であったと思う。キャストもスタッフも、誰一人として手は抜いていない。その熱意は十分に伝わった。にもかかわらず、それらの力がよい相互作用を生まず、クオリティの高い舞台に至らなかったことがなんとも惜しまれる。コンセプトも、練り上げられたものだったのだと思う。しかし、見込み違い、計算違いがあったように思われる。

「空間に負けた舞台」だったのだと思う。演劇に向かないホール。難しい条件の空間でのステージ。客席から、実際にどう見えるのか。その計算に、見込み違いがあったのではないかと思う。もし、鳥取県が今後も演劇に力を入れてくださるのなら(心からそう願いたい)、多目的ホールではなく、「劇場」を作っていただくのが一番だと思う。

舞台成果に対する具体的な批評は、この後、順を追って記述するのだが、辛口批評となる理由の一つに、俳優の動きの悪さ(身体表現の問題)がまず挙げられる。ただ、動きが悪くても、もしかしたら細かい表情を工夫していたのかもしれない。できればそうしてあげたかったのだが、私に用意された席は大変悪く、舞台から遠すぎて、俳優の表情が見えなかったのだ。せっかく稽古を重ねられた俳優には気の毒な限りである。公平で客観的な評価レポートを書くために、私は呼ばれたはずであったのだが。

これは、席が悪かったと文句を言っているのではない。私は与えられた仕事の条件の中で、冷静に、できることを遂行するだけである。

ただ、ここに私は一つの問題を感じる。私の席を用意してくれた職員は、それが悪い席であるということに気づいていなかったのではないかと。それは今後の課題となることだと思われるので、指摘しておいたほうがよいだろう。

私の席は、2階席の一番前のセンターである。通常で考えると、それほど悪い席だとは思われなかったのだろう(とはいえ、参考までに申し上げると、仕事として観劇する場合、プレス席として主催者が用意されるのは、通常1階席10列目から15列目のセンターではあるのだが。2階席を用意されたことは、今回が初めてだ)。

しかし、この倉吉未来中心大ホールは、客席の設計が大変悪い。少なくとも演劇のための観客の立場に立ったホール設計ではない。2階席とはいえ、舞台から非常に遠く、そして、高い。これでは通常の劇場の3階席だ。席種でいくと、S席でもA席でもなく、B席かC席だろう。

このような客席構造のホールで芝居を上演せざるを得ないのなら、2階席には客は入れない、くらの気概が必要だろう。入れるとすれば、1階席がソールドアウトになってからの最後の手段だろう。今回、1、2、3階席を同時に販売したとのことだが、制作者のチケット販売、配券に対する細やかな対応が、今後の課題である。

特に、今回のような一般市民参加による、素人さんの俳優が出演する場合は、大劇場慣れしている商業演劇のプロの俳優とは違うのだから、彼らに客席全体を意識した演技をする余裕はない。商業演劇の俳優であれば、2階席3階席の観客にも届く演技をすることを心得ているが、素人さんに

それを求めるのは不可能だ。その分、制作者の心配りが必要になる。

なお、1階席にずいぶん空席が目立った。2階席、3階席の、舞台が見えにくい席で見ている観客にとっては、『空いているなら、あの席に座りたかった』という心理が働くものであり、あまりよいものではない。今回1階席はソールドアウトだったと聞かすが、それなのに、なぜあのようにたくさん空席ができたのか？当日急に都合が悪くなって、来れなくなった人がいたというレベルの空席の数ではなかった。震災当日、東京の劇場には空席が目立ったそうだが、そういう特例以外で、このような現象は、見たことがない。端の席や最後列、3階席など、見えにくい席以外は空席にならないよう、制作者は配慮するものなのだが、今回は、制作者の責任ではないのだろうが、なぜこんな珍現象が起きてしまったのか、調査し、今後に生かすほうがよいと思われる。

では、内容の記述に移る。

演劇と音楽のコラボレーションについて

台本は悪くない。よい構成の台本だ。音楽も、非常に力のこもった楽曲である。演技も、素人さんとはいえ、決してレベルの低いものではない。ひとつひとつは悪くないのに、なぜ、それらすべてが合わさったとき、冗漫な舞台となってしまったのか。惜しくて仕方がない。

演劇と音楽がコラボレートした時、本来は演劇と音楽が掛け算となって、大きく飛躍すべきものである。なのに、今回は逆に、引き算になってしまった。

その原因を上げる。

1 演技者のアクティングエリアを、演奏者が取り囲んだこと。

このレイアウトはまずかった。

演奏者を、上手下手に固めるならまだしも、俳優の背後にまで座らせてしまったのは、失敗である。なんと狭いアクティングエリアになってしまったことか。これでは俳優が動けない。横歩きするしかない。

また、芝居の間中、演奏者の顔が、俳優の後ろに見えている。これでは、観客が慶長19年の時代に入り込もうとしても、入りこめるわけがない。平成の顔が、常に視界に入るのだから。いつまでたってもドラマに入り込めないのだ。せめてドラマの間は、演奏者にあたる照明を落とせなかったものか？

また、演奏者が座っているため、俳優の出はけも、上座と下座の前つら2箇所しかない。これも動きを平板にさせた一因。

さらに申し上げると、通常演劇において、演奏者は舞台上には上げないものだが、制作者や演出家のコンセプトとして、どうしても舞台に上げたい場合は、舞台のかなり高いところに足場を組み、そこに演奏者に座ってもらう。つまり舞台を2階建てにし、舞台は俳優が広々と使って動けるようにする。また、演奏者には明かりは当てない。特に演奏者を見せたい時にだけ明かりを当てるものだ。なぜそうしなかったのか？

何らかの意図があって今回の形にしたのだとは思いますが、その意図は伝わってこず、成果につながったとは思えない。(俳優も演奏者も、全員が主役だ、と示したかったのが、意図なのだろうか？もしもそうだとすれば、それは作り手側の欲求であり、お客さんの目線に立ったプランではないと思う)。

2 狭くなってしまったアクティングエリアだが、それでも、動きようがあったはずなのに、工夫が足りない。

俳優の動きが、横移動のみで、非常に平板。しかも狭いアクティングエリアの床がフラットで、さらに動きが平板になってしまった。なぜフラットにする必要があったのか？階段舞台にするなり、やおや(ななめ舞台)にするなりすれば、もう少し動きは出せただろうし、それ以外でも方法はあったはずなのだが。なぜ、舞台を狭くし、しかもフラットにしたのか、その演出意図は理解しかねる。

しかも、俳優が横一列に並び、棒立ちで演技をする場面が多々見られた。それでは芝居ではなく、朗読劇だ。いや、最近では朗読劇でも、もっと演出に工夫を凝らしている。

ドラマ・リーディング風にしたかったというのが、演出意図なのだろうか？しかし、ドラマ・リ

ーディングは、小劇場でやるものである。少なくとも発祥はそうだ。もし大ホールでドラマ・リーディングをやるなら(無謀だとは思いますが)、何か、まったく新しい、斬新なアイデアが必要になる。(私自身は、ドラマ・リーディングは小劇場でやるものだとして認識しているので、大ホール用のどんな斬新な演出法がありえるかは、想像もできないが。やはり大ホールでドラマ・リーディングをやらないに越したことはない)。

なぜ横一列に並んで、棒立ちで演技をするのか？ドラマが停滞する一方である。

しかも、八賢士が公議の沙汰を聞く場面でも、一人を除いて、またもや棒立ち。公議の沙汰を聞くときは、武士は膝をつくものなのではないか？

ここまでくると、この棒立ち(演劇では俳優も演出家も、通常もっとも避ける立ち方。演技方法)は、意図的になされたものだと思えてくる。しかし、その意図は何か？理解できなかったし、また成果を上げているとは思えなかった。

3 ドラマの合間に、演奏だけの場面がたびたび挿入されたことについて

音楽が演劇を邪魔していたとは、決して思わない。しかし、その挿入の仕方に関して、構成上の問題があった。

演奏の間は、ドラマが中断される。これは、演劇を主軸に見ると「間延び」となる。1度ならよいが、こうもたびたびドラマが中断されると、見ているほうは、ドラマに集中できない。「ここは演奏の場面」と独立させる必要があったのか？ドラマと演奏を、もっと有効にコラボレートさせる演出はできなかったのか？演奏の最中にも、無言の演技を入れることはできなかったのか？(一部は、入れられていたが)。

演技に躍動感がない

俳優の動きの問題については、「演劇と音楽のコラボレーション」の項でも記述したが、さらに付け加えると、今回、演劇として退屈なものになってしまったのは、俳優の演技に躍動感が欠如していたことも要因だ。

たとえば、村の川の水があふれるという、村人の生死にかかわる会話をしている場面で、なぜのんびり、ゆっくり歩きながら話ができるのか。村人を守るために強く主張したいことがあれば、もっと勢いを込めて相手に向かっていかないか？走らないか？危機感を、身体で表現すべきであったと思う。

また、祭りの場面では、1階客席全体が赤い布を振るなど、工夫をしておいたのだが、その場面の踊りの振付や演出、演技に、まだまだ工夫が足りない。俳優が素人さんだから、難しい振付は避けたのだろうが、しかしシンプルな振付でも、もっと盛り上げる演出が可能だ。それなのに、客席から大拍手が起きたのは、悲しい気がした。もっと県民には本物の演劇を見てもらって、目を肥やしてほしい。東京や大阪の観客なら、この程度の(と言っては失礼だが)演出では拍手をしない。

ただ、動きは悪くても、表情がよかったのかもしれない。それが私の席からでは見えなかったのが残念で、公平性を欠く記述になっているのかもしれないが。

客演の成功

今回、登場人物一人一人のキャラが見えてこなかった。皆同じに見えてしまったのだ。見分けがつかなかった。そんな中、ピッコロ劇団からのプロの客演が成功していた。俳優の顔は私の席からではあまり見えなかったが、どの俳優がプロかは、すぐにわかった。大事な役(このキャスティングは成功)の勘所を、着実に押さえていた。芝居に二つの芯ができていた。

動きの制限を余儀なくされた舞台だったが、それでもこの二人は、動けずとも役を表現していた。県民にとって、プロとの共演は大いに刺激になっただろう。

それにしても、動かずとも役を表現できるのは、プロだからこそ。素人さんの俳優にはそれは無理な相談だ。だからこそ、動きを制限した演出は、避けるべきだったと思う。

舞台美術について

木製の白い柱が上からぶら下がっていた。これはよく見かける演出で、それ自体は否定するものではない。が、この柱が何のためにぶらさがっているのか、まったく意味が分からなかった。

場面によって、それが何かに見えてくる（たとえば木とか、屋内の場面なら柱だとか）ものだと思うのだが、何にも見えてこなかった。もう少し効果的な使い方はできなかったものか。

準備期間を2年使ったことの成功

時代劇の台詞は、素人さんには言いにくい言葉が多々あるはずだが、クリアーに発声できていた。これは準備期間、稽古期間を長くとったことが功を奏していた。それだけに、身体表現ができていなかったことが惜まれる。ただ、それもある程度、もう少し演出でなんとかならなかったはずなのだが……。大ホールであることを意識した、大きな動きを、演出家はつけるべきだったと思う。

若手育成の成功

今回唯一感動させるレベルだった場面は、ラストの演奏。プロと高校生たちの共演だ。見ごたえがあった。高校生にとっても、大きな飛躍につながるだろう。

奥舞台に高校生たちが大勢、ずらりと並んだ光景は、壮観であった。

ただし、ここにも疑問が一つ。開幕の最初から、椅子の並んだ奥舞台を見せていたのはなぜだろう？たえず視界に入っていたので、ドラマへの集中を欠く上に、完全なネタばらしで、効果が半減である。つまり、「最後にあそこに高校生が並ぶのね」と、最初にお客さんにネタ晴らししてしまっている。大黒でかくしておいて、高校生が並んでから、大黒が徐々に開いていくところを観客に見せたほうが、確実に観客は息をのみ、感動する。

高校生が大勢舞台に並んだ光景は、それほど壮観なのだ。奥舞台の全貌は、ラストに見せたほうが絶対よかった。

あえてそうしなかったのも、意図的なことなのだろうが、その意図は、不要なことだったと思う。

制作者の意図ややりたいこともあるだろうが、コンセプトを練る時は、お客さん目線に立って、多少の譲歩も必要ではないだろうか。

地域文化の定着と発信について

地元の歴史的財産を素材に作品を作ることは、貴重なことであり、続けていかれるとよいと思う。

ただ、県外の人間にとっては、なぜ八賢士がそれほどまでに、今も倉吉の人々に愛されるのかは、見ていて正直わからなかった。

それを舞台で表現するとすれば、たとえば川の水があふれる危機を、八賢士が命がけで救った場面。そこでもっと彼らの思いや、命がけの働きぶりを身体で表現できれば、伝わったのだと思う。（何度も言うが、これまた躍動感の欠如）。

その場面の演技・演出が弱かったため、伝わらなかった。

県民が文化芸術を楽しむ感性を養ったか

これもリポートのチェックポイントの一つと聞いている。申し上げにくいのが、県民には、もっと本物の舞台に触れてほしい。すでに記述したが、舞台の工夫がまだ足りないにもかかわらず、客席が盛り上がるのは、少し悲しい。

作品の発信性について

作品の発信性、つまり全国発信できるかどうか、という点についても、評価リポートのチェックポイントと聞いている。もうこれ以上、酷なことは書きたくはないのだが……。チェックポイントとあれば、仕方がない。今回の舞台成果に関して言えば、発信性は、ない。

最後に……

心ならずも酷評することになってしまった。

これは、一人一人がこんなに頑張っているのに、全員の力が総合した時、成果が上がらなかったことが惜しいと思ったからだ。

本当に手拔きの舞台なら、腹も立たないし、心も動かない。こんなにも私の心が動いたのは、ひたすら惜しいと思ったからである。手拔きをした人は一人もいない。皆こんなにも頑張っているのに……。

なぜ力が掛け算ではなく、引き算になってしまったのか。

重ねて述べるが、音楽はよかった。台本の世界をよく理解した作曲であった。なのに、同じ舞台に立った時、互いを生かし切れなかったことが惜まれる。

申しわけないが、ここは、演出家に頑張ってもらわない。

県民が多数参加する一大プロジェクト。その舞台の演出は大変難しいことはよく理解しているつもりだ。これまでも見聞きして知っている。成功に導くのは、大変難しい。しかし、それができた演出家も、私は知っている。

ここに記載したことは、演出家にとってはおそらく心外であり、自分がやりたかったことは、そういうことではない、と反発を買うのかもしれない。しかし、私には客席から見えたこと、感じたことを書くしかないのだ。

今回の企画は、貴重な試みであり、続けてもらいたいと願うが、それにはもう少し視察し、勉強を重ねていただくことが望まれる。

行政が文化に積極的になることは、大変良いことであり、文化行政が遅れている大阪の市民の私としては、羨望の気持ちで見つめる。それだけに惜しい。さらに発展させてほしい。

このような大プロジェクトを継続させている鳥取県は素晴らしいと思う。この仕事を引き受けた時は、できる限りよいところを見つけて、エールを送るようなリポートを書くつもりでいたのだが、悪いところばかりが目立ってしまった。素人さんの演技は、当然のことながら小さいので、近くで見れば、よいところも発見できたのかもしれないが。私の席からでは見えなかったことが、大変残念だ。見えたことだけを書くしかなかった。もっとよい席で、良い条件で観劇できた人の意見を参考にしていきたい。

私がこのリポートを書いたことで、今後の企画の継続に支障が出ることだけにはなってほしくない。文化行政として、貴重な企画である。大阪府には、鳥取県を見習ってほしいと願うほどである。

今回の課題を今後に生かして、さらなる発展を心から祈ります。

鳥取大学地域学部教授 野田 邦弘

1. はじめに

「鳥取 JAZZ」2011 は、鳥取市の中心市街地に立地するライブハウス「アフターアワーズ」を拠点として活動する鳥取市在住のプロミュージシャン菊池ひみこ（ピアノ）が中心となって構想を練り、地元の社会人や学生など仲間とともに企画としてまとめ上げ、今回「とりアート 2011 キラリ☆アートプロジェクト」に応募し、採択されて実施した事業である。

この事業は、「ジャズ」と“アート”を2大柱」としている点、また、中核的事业である「鳥取まちなか JAZZ」では「ミュージシャンが街なかで演奏を行うことで、普段ホール等へ行かれない方に生の演奏を楽しんでいただく機会を提供し、新しいジャズ愛好家や鑑賞者、地元のミュージシャンの発掘・育成、相互交流の場」を形成することで「中心市街地の“にぎわい”の創出に寄与」することを目指している（「鳥取 JAZZ」パンフレットより）点が特徴であり、これまで鳥取県内では見られなかった新しい取り組みである。

2. 基本方針にもとづく評価

(1) 企画意図

「鳥取 JAZZ」は、従来の文化事業の殻を破り、ホール等の文化施設内だけではなく、ライブハウス、市民交流施設、路上などまちなか全体を会場として、文化的祝祭空間を創出することを目指した点で、これまでの取組とは異なっている。

まちなかの複数箇所で同時多発的にジャズ演奏を行うという手法は、「神戸ジャズストリート」、「横浜ジャズプロムナード」、仙台の「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」など街の行事として全国的に定着しているものもあるが、山陰地方では初の試みである。

これは、基本方針の「中長期の考え方 平成21年度から平成23年度」の「⑧ 各施設や場所の有効活用により、メイン会場を中心に街全体が劇場となるよう演出や工夫を行います」に合致するものである。さらに、コンサートだけではなく、若者を対象としたクリニックやワークショップなども実施し、これは、同じく「⑩ 世代や立場を超えて誰もが文化芸術を鑑賞、体験できる機会と環境を整えます」「⑪ 多様な文化芸術活動を選択できるような魅力ある事業を実施します」「⑬ 次世代を担う子どもたちの発表の場を提供します」を具体化しようとするものである。

このような企画は、従来ともすれば文化関係者中心の閉じたコミュニティにより「身内の」に企画運営されがちであった文化事業をより開かれたものとして再構築し、これまで参画してこなかった若い世代などを幅広く巻き込むこととなり、アートマネジメントの担い手を育成するという「キラリ☆アートプロジェクト」の事業目的にもかなうものであった。特に、鳥取大学 JAZZ&FUSION 研究会との協働は評価できる。

また、ジャズとアートを2本柱としたことも、本事業の特質である。これは、企画段階からジャズ部門を企画した菊池ひみこと造形作家の徳持耕一郎と一緒に協力して創り上げたことにもとづいている。ジャズとアートをテーマとしたイベントは全国的にも珍しい（横浜の「吉田町アート&ジャズフェスティバル」は2006年から始まっている）。

(2) 事業内容

本事業のプログラムは、下記の通りである。

① ジャズ×アート

- ・徳持耕一郎『ディア、カルダー』展～新たな始まりとして～（ギャラリーそら）
- ・「ジャズ写真家・阿部克自、常盤武彦 作品展」（スペース空）
- ・常盤武彦 Photo & Talk Session（アフターアワーズ）
- ・ジャズ喫茶「Birdland Cafe」& 展示（パレットとっとり市民交流ホール）
- ・映画「JAZZ 爺 MEN」特別上映会（パレットとっとり市民交流ホール）

② 鳥取まちなか JAZZ

- ・鳥取大丸前

- ・サンロード路上
- ・若桜街道路上
- ・パレットとっとり
- ・Le Cochon D'or

③ ホール&ライブハウス公演

- ・Tottori Swingin'Session～Jazz meets Drawing Art～（とりぎん文化会館小ホール）
- ・妹尾美穂 with TRI4TH ライブ in 鳥取 JAZZ（アフターアワーズ）
- ・TRIO' Live in 鳥取 JAZZ（アフターアワーズ）
- ・鳥取 JAZZ セッションナイト（アフターアワーズ）

④ ワークショップ

- ・子どものためのジャズワークショップ&コンサート（わらべ館いべんとほーる）
- ・リズムクリニック（アフターアワーズ）
- ・管楽器セミナー（とりぎん文化会館第3, 4 練習室）

⑤ 鳥取 JAZZ in 因幡にぎやか街道

- ・徳持耕一郎ワークショップ「針金で立体動物を作ろう」（とりぎん文化会館第4 会議室）
- ・ビッグバンドライブ（とりぎん文化会館フリースペース特設ステージ）
- ・ジャズ喫茶 supported by After Hours（とりぎん文化会館小ホール）

(3) 実施主体/実施手法

鳥取在住のプロミュージシャン菊池ひみこを中心として実行委員会が組織されたが、すでに述べたように、当初から美術系の造形作家とともに企画を立てている。また、多くの部員をかかえる鳥取大学 JAZZ&FUSION 研究会と協力関係を構築したことは、運営上のボランティア確保、クリニックやワークショップ参加者の確保などの点で効果的であった。また、菊池のネットワークにより、一流のジャズメンを比較的安い経費で招聘することができたこと、ライブやワークショップ会場として菊池の夫でありプロギタリストの松本正嗣が経営するライブハウス「アフターアワーズ」が使用できたことも、まちなかの様々な場所で事業実施するという点から評価できる。これは、基本方針の戦略「①アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化します」「⑤ 文化芸術に関わる人材の育成を行い、特にアートマネージャーやプロデューサーの役割を担う人材を育成します」を満たすものである。

(4) 来場者数とその属性

鳥取 J A Z Z 実行委員会から提出された観客アンケートによると、本事業への来場者数は、全体で 3,300 人である。また、事業毎の来場者数は、表の通りである。また、本事業の特徴として、来場者の年齢構成が、20 歳代から 60 歳代までほぼ均等でバランスが良いこと、男女がほぼ同数であることが指摘できる。これは、ジャズという音楽の特性からくるものと考えられる。ジャズは、若年層からオールドファンまで幅広い支持層があるためこのような傾向となるものと考えられる。

このように、年齢、性別ともバランスのとれた来場者傾向を示す文化事業は珍しい。これは、ジャズという音楽特性だけではなく、施設内だけではなくまちなかでの演奏などが数多く実施されたことで、通行人が鑑賞したことにも起因すると考えられる。

(表) 鳥取 JAZZ 来場者数 (アンケートによる)

10/29~11/3 「ディア・カルダー展」、「ジャズ写真家・阿部克自、常盤武彦 作品展」		470
10/29 常盤武彦 Photo & Talk Session		40
11/ 1~11/5 ジャズ喫茶「Birdland Cafe」, 映画「JAZZ 爺 MEN」上映会		450
鳥取まちなか JAZZ	11/3	1,100
	11/5 (雨天)	450
	11/6 (雨天)	320
11/4 Tottori Swingin' Session		135
11/2 妹尾美穂 with TRI4TH		45
11/5 TRIO' Live in 鳥取 JAZZ		40
11/6 鳥取 JAZZ セッションナイト		45
11/5 子どものためのジャズワークショップ&コンサート		150
11/5 リズムクリニック		20
11/5 管楽器セミナー		35
総計		3,300

(5) 観客の反応

上記アンケートによれば、事業全体では総数 252 人の回答があった。これは、来場者数 3,300 人の 7.6% であり、回答率はかなり低かった（このことは、今後の改善点とすべきである）。

しかし、事業の全体的評価は、「とても満足」（136 人）と「満足」（91 人）をあわせると 90%（227 人）となっており、観客の満足度はかなり高かったⁱⁱ。特に、自由記述欄では、日頃鳥取では聞くことのできない一流のジャズを聴くことができたことへの評価が目立った。このことは、潜在的に存在するジャズファンの掘り起こしに一定程度はつながったものと考えられる。

このことは、次回も鑑賞（参加）したいかという質問に、「ぜひ鑑賞（参加）したい」と「鑑賞（参加）したい」をあわせると 93% とほとんどの鑑賞者（参加者）から高い評価を得たことになる。

(6) その他

今回の事業では入場者（参加者）に対する事業内容に関するアンケートは実施したが、地元商店街、地域住民などその他のステークホルダーへの意識調査は行っていないため、地元の受け止め方は補足できていない。また、地域の経済波及効果についても不明である。

3. 個別事業への感想

以下は、評価者が参加した事業に対する個別の感想である。

(1) Tottori Swingin' Session ~ JAZZ meets Drawing Art ~ (とりぎん文化会館小ホール)

入場者に対して会場が大きすぎた。一方、これはホールの運営上の問題であるが、開演を知らせるブザーの音を改善すべきである（他県のホールを参考に）。また音響調整をもう少しアコースティックにした方が良かった。また、ホワイエでは、ワインなどを販売すべきだと感じた（観客同士の対話を促進するためにも）。

(2) 映画「JAZZ 爺 MEN」特別上映会 (パレットとっとり市民交流ホール)

上映会場はパーティーションで仕切っただけだったので、会場内に明かりと音が漏れ込んでいた。

(3) 子どものためのジャズワークショップ&コンサート (わらべ館いべんとほーる)

ワークショップのための選曲（「C ジャムブルース」）が良かったので、参加した子どもたちも自然と演奏に加わっていた。菊池さんの指導が上手だった。

(4) リズムクリニック (アフターアワーズ)、管楽器セミナー (とりぎん文化会館第 3, 4 練習室)

いずれも、ベテランの講師による密度の濃いクリニック、セミナーを行っていた。鳥取では、なかなかこのような一流のプレーヤーによる少人数の演奏指導機会は少ないため大変有意義

であったと思う。参加者も小学生から大学生までの若い層が主体であり、指導者は、参加者からの質問に丁寧に答えていた。

4. 総括

以上概観したように、「鳥取 JAZZ」は大きな成功をおさめたと評価できる。本事業が達成したことをまとめると次のとおりである。

(1) 文化的側面

- ・日頃接することの少ない一流のジャズ演奏をまとめて提供することで、潜在的なジャズファンの文化的ニーズに応えた。
- ・県内高校のブラスバンドにまちなかで演奏の場を提供することにより、高校生側、観客側双方にとって貴重な体験となった。

(2) 教育的側面

- ・リズムクリニック、管楽器セミナーはブラスバンド部員などを対象に、通常では受けることのできないプロミュージシャンによるレベルの高い演奏指導が受けられた。
- ・「子どものためのジャズワークショップ&コンサート」は、児童生徒がジャズに興味を持つようになる良い機会であった。また、会場のわらべ館との連携もうまく機能したようである。
- ・鳥取大学 JAZZ&FUSION 研究会との連携は、部活動の活性化だけでなく、とりアート事業をマネジメントする機会を学生に提供することで、アートマネジメント教育の実践の機会ともなっている。

(3) 地域活性化の側面

- ・衰退が進む鳥取中心市街地において、一時的にせよ多くの市民の来場を実現したことで、まちの活性化につながった。

5. 課題と今後の展開に向けて

本事業は多数の人達が関わり、屋外を含む様々な場所で、多彩なプログラムが実施されたため、いくつかの課題も生じた。まず、天候への対応である。本事業の目玉のひとつである「鳥取まちなか JAZZ」は、路上等屋外での演奏であるため当日の天気大きく左右される。晴天に恵まれた 11 月 3 日は 1,100 人の参加者があったのに対して、雨天で会場を鳥取駅前サンロード商店街に移した 11 月 5 日と 6 日は合計で 800 人弱とかなりのダメージを受けた。雨天時を考慮したプログラム構築は重要である。

広報面でも課題が残った。プログラムは、事業別に構成されているため、当日どこで何時から何があるかというイベント情報が一覧できなかった。プログラムづくりは、より来場者本意で作成すべきだろう。

一方、今後の方向性についてもいくつかの提言を行いたい。本事業をジャズとアートという 2 本柱のイベントとして今後発展させていくためには、特にアート側の参加者の層を厚くしていく工夫が必要である。例えば、「吉田町アート&ジャズフェスティバル」(横浜)のように、路上ライブ演奏とあわせて、アート作品の展示販売を行うなど、若手アーティストのための場づくりも考慮されていいのではないだろうか。また、高校生のブラスバンド演奏は定例化すべきだろう。

鳥取県は、「アーティスト・リゾート」を推進している。また鳥取市も中心市街地活性化や若者定住促進に力を入れている。一部の文化愛好家を中心とした施設内提供型の従来の文化政策から、文化の持つ外部性に注目し、文化による観光振興や地域経済活性化を目指した創造都市の取組がわが国でも本格化しつつある。文化庁はこれまでの文化芸術創造都市への取組に加え、来年度は全国規模の「創造都市ネットワーク(仮称)」を構築しようとしている。「アザレアのまち音楽祭」(倉吉)に対して、鳥取市を代表する文化観光事業として「鳥取 JAZZ」を大切に育てていくべきではないだろうか。

ⁱ 入場者アンケートによれば、年齢は、20歳未満(18人)、20代(50人)、30代(44人)、40代(46人)、50代(45人)、60代(36人)、70代以上(9人)、無回答(4人)であり、性別は、男性(125人)、女性(124人)となっている。

ⁱⁱ その他、「普通」15人、「不満」1人、「とても不満」3人、「無回答」6人、となっている。

キラリ☆アートプロジェクト 日野町民ミュージカル第10回記念公演「きりりこの町」
～遠いむかしむかし、僕たちの町おこし～

平成23年11月19日(土)・20日(日) 日野町文化センター

演劇評論家 立花 恵子

イベントは大きく三つの段階(目標)に分けられる。一つ目はお祭りのなもので地域住民が楽しむために存在するイベント、二つ目は地域活性化のために行なうイベントで、範囲も地域規模から少し広がって県内規模の人も入場対象となりその成果が求められるようなイベント、そして三つ目が全国から観客が来場し地域も活性化する全国レベルのイベントである。そして規模が拡大していくに伴って最重要課題となるのがイベントの「クオリティ(=芸術性)の高さ」である。

アートマネージャーの育成と、魅力的な鑑賞機会の提供を目的に、鳥取県全域から2事業の企画を公募、実施する「キラリ☆アートプロジェクト」に今回初めて採択された「日野町民ミュージカル」は、2002年に鳥取県で開催された「国民文化祭」をきっかけに、町の自然や歴史、文化財などを題材にミュージカル公演を行ってきたとのことである。その成り立ちからもスタートは第一の段階。そして今回10周年となったのを機に次のステップである第二段階のイベントへと駒を進めることを目標においての公演だと推測されるが、基本的な下地は整ってはいるものの第二段階に達するには様々なハードルをクリアしていかなければならないといえるだろう。

今回の作品『きりり この町 ～遠いむかしむかし 僕たちの町おこし～』のストーリーだが、昔、清流を探しに日本中の川を旅していた河童たちが、日当たりのよい野原を見つけ、その地を「日野」と名付け住み始めた。そこへ北の国から、やはりきれいな川を求めてやってきたオシドリや群れもここで暮らすことになる。やがて砂鉄を求めて鬼たちが流れ着き、村の大人たちは鬼たちに追われ殺されてしまう。残された村の子供たちは、鬼の襲撃にあいながらも不思議な力を持つ、からくり(楓馬)の助けを借りて、河童やオシドリたちと力を合わせて自然豊かな日の地を取り戻そうと村おこしをはじめるといふもの。

「日野のまち」をテーマに年800羽が日野川に飛来する県鳥で日野町の鳥でもあるオシドリや、古くから伝わる河童伝説の河童、日野郡に伝わる鬼伝説など、日野にゆかりのあるキャラクターを登場させたことは、ご当地作品の定番モチーフではあるものの、町民にとって作品をより身近なものとして感じ取ることができ、親しみや愛着を持てるという点で評価できる。ただキャラクターそれぞれのシーンの中に自己の成長など別のテーマを組み込んだことで、各シーンの印象が強くなり過ぎ、全体のストーリーの流れを度々中断させてしまって、結果、オムニバス形式のような作品になってしまった。

それはゲストに迎えたプロの和太鼓奏者「あすか組(奈良県)」についてもいえる。ミュージカルという「洋のテイスト」の中に、和太鼓という「和のテイスト」を組む込む和洋折衷のコラボレーションは「アマチュアと専門家のコラボレーション、芸術ジャンル間や異業種との連携を強化する」ことを定性目標の一つとしていた通り、面白い試みではあったが、こちらも「あすか組」の演奏シーンが強すぎてワンマンショーを見ているようであった。「あすか組」は鬼と村の子供たち、オシドリ、河童らと和解し、その祝いとして鬼が住む村の自慢の太鼓を演奏するラストシーンで登場するのだが、それまでのストーリー上には「あすか組」の登場はなく、台詞一行で作品に組み入れるには少し強引で、唐突感がぬぐえず、設定も安直すぎた。演奏も作品とのつながりが見えてこない上に、出演者も観客と一緒に「あすか組」の演奏を聞いているだけで「あすか組」のショータイムになってしまったのは残念。コラボレーションというのは単に作品の中に出演させることではなく、今回の場合であれば出演者がプロの奏者と一緒に太鼓や他の楽器を演奏したり、太鼓演奏に合わせて歌やダンスをするといったことができたと思う。

10回という節目の公演でもあり日野町ゆかりのキャラクターそれぞれを活かしたいという意気込みは理解できるがその思いが強すぎたのだろう。オールメンバーが最強メンバーにあらず。演劇に限らずスポーツであっても会社であっても社会全体にしても主役ばかりでは全体としては成り立たない。主役、脇役、敵役と明確な性格づけが必要。それをどう機能させるかが演出家の手腕の

見せ所である。今回の作品では、主役は「からくり＝楓馬」という少年である。そういう意味で、主役のキャラクターもほかのキャラクターに比べて性格づけが弱かった。「からくり＝楓馬」は何故、不思議な力を持っているのか―「からくり＝楓馬」の正体を精霊であるとか日野町を守る氏神のような存在にして展開していけば「からくり＝楓馬」のキャラクターが引き立ったのではあるまいか。

また「からくり＝楓馬」が持つ不思議な力の助けを借りて鬼を退治し村おこしへとつながっていく、というそのメインストーリーをしっかりと確保しなければ作品の軸がぶれてしまう。ストーリーの本筋をしっかりと描き、本筋を見失わないことが必要である。演劇の善し悪しは「ほとんど戯曲で決まる」といい。ドラマは台詞一つ一つが相手役に、どのような距離や温度、強さで関係していくのか、そして相手役はその投げかけられた言葉一つ一つを聴きながら、次の自分の台詞が自然にそこに生まれる状況とその場で見つけていくことでドラマが構築されていくのである。しっかり役柄（人間）同士のコミュニケーションが取れていれば強引な展開でも成立していくのである。

あと誰も彼も手が「漢字の八の字のスタイル」になっている出演者たちの上半身の演技が気になった。意識して演技することが必要だろう。また音楽やダンスが入っているからミュージカルではなく一般的にミュージカルというのは歌で場面を展開させていくというのが基本的な構成である。ミュージカルを創作する上で常に意識することが望まれる。

ここまで作品や演者について気にかかったことをあげてきたが、改善点があればあるほどそれだけ伸び代があるということである。一つ、一つの課題をクリアにすることでレベルもあがっていくはずである。

「日野町民ミュージカル」が次の段階に進むためにはもう一つ「観客の成長」が大事な要素でもある。イベントとしても今回で10年。出演者も参加者33人、ステージ数も増え、また満員の客席を見ればこのミュージカルが町民の年間行事として定着していることが身をもって実感できる。積極的なアウトリーチ活動など次の段階に進めるための明確な目標立てをしていることも評価できる。ただ「良い芝居は観客が育てる」という言葉があるように、芸術というのは一方的に与えられるものではなく、観客が育てるものであることを観客側に意識してもらうことが必要である。今回の舞台でもそうだが満席の劇場では出演者も当然いつも以上に熱が入る。良い舞台では出演者と客席、スタッフすべての人が一体になって共通の時間・空間を共有できる。感動の拍手やスタンディングオーベーションという行為が演者のモチベーションを引き出して、良い舞台作りへとつながる。そうすれば観客側自身も面白い作品を見ることができる。そのためには「良い観客を育てる」ことが重要な要素なのである。例えば客席席では帽子を脱ぐ、観劇中におしゃべりはしない、前のめりで見ないとといった観劇マナーも一つである。単なるサポーターではない。出来上がった作品をきちんと評価すること、厳しい目を持つことが次の作品につながっていくのである。身びいきは最大の敵であり、良いものには拍手をおくり、ダメなもの時にはブーイングすることが演者を育てていく。

将来的には町以外での公演を念頭に置いていることも意欲的でいいのだが、発想を転換して地元で観客を呼ぶ作品作りを目指すことを考えてはどうか。今回も「町民ミュージカルを応援する100人の会」には予定の倍以上239人も人が加入し、また県外からの町出身者も賛助会員に加入、観劇ツアーも行ってくれるなど地元関係のサポートが公演を支えてくれている。日野町見学も併せた観劇バスツアーも成果をあげていることを思えば日野町に観客を呼び込む村おこしイベントとして考えるのも一つの方法である。確かなことは「おもしろいものだけが生き残る」という単純な論理であり、要は観客というのは作品が魅力的でありさえすれば、そこがどこであれ出向くということなのである。作品の完成度を高め、ひいては作品全体のクオリティを高めることが「わざわざ観に行く」ことにつながるのである。観客もチーム「日野町」として日野町民ミュージカルを育てるという風に考えれば、より一層、日野町民ミュージカルを面白くできることに違いない。

鳥取県総合芸術文化祭評価委員会

■委員名簿

氏 名	職 名 等	備 考
うえ 植 田 じょう 丞	元県立高等学校非常勤講師	座長
こ 小 だに 谷 ゆき 幸 ひさ 久	米子市文化協議会会長	副座長
おお 大 や 屋 ゆ 由 き 紀	鳥取短期大学学生(幼児教育保育学科)	
おか 岡 むら 村 よう 洋 し 次	株式会社新日本海新聞社記者	
かど 角 あき 秋 かつ 勝 し 治	文化芸術評論家、鳥取ガス株式会社文化広報室	
か 河 わい 合 はる 晴 み 美	元サンケイリビング新聞社編集部	
た 田 なか 中 えつ 悦 こ 子	鳥取大学大学院生(地域学研究科地域教育専攻修士課程)	
はぎ 萩 はら 原 とし 俊 ろう 郎	株式会社新日本海新聞社記者	
はま 浜 だ 田 あ け み	社会保険労務士	
まえ 前 だ 田 なつ 夏 き 樹	鳥取短期大学生生活学科准教授	
まつ 松 もと 本 かおる 薫	NHK文化センター米子教室・小説エッセイ部門講師、 文芸誌「さるびあ」主宰	
みず 水 た 田 かず 一 み 美	米子市民劇場運営委員	
むら 村 た 田 ま 真 ゆみ 弓	鳥取県合唱連盟常任理事	
よこ 横 の 野 よう 洋 こ 子	元鳥取市立日進小学校校長	
よし 吉 の 野 りゅう 立	米子市文化協議会常任委員	

■評価委員会の開催状況

回数	開催日	報告・協議内容
第1回	平成23年 6月22日	(1) 座長及び副座長の選任 (2) とりアートの概要 (3) 第9回とりアートの評価の基本方針 (4) 事業評価の流れ
第2回	8月25日	(1) 第9回とりアート評価報告書の構成 (2) 評価委員会委員の現地検証及び執筆担当 (3) 第9回とりアート観客アンケートの様式
第3回	平成24年 1月24日	(1) 第9回とりアートの開催結果 (2) 事業別評価の執筆担当 (3) 事業別評価に当たっての意見交換 (4) 評価委員会の見直し
第4回	2月23日	(1) 事業別評価についての意見交換 (2) 総合評価のための意見交換 (3) 評価委員会設置要綱(案)について

第9回とりアート評価報告会（平成24年3月19日開催）において評価結果を報告

鳥取県総合芸術文化祭評価委員会設置要綱

(目的)

第1条 鳥取県総合芸術文化祭の事業を年度ごとに見直し、点検することにより、当該事業における良質な作品創造や充実した文化芸術の公共サービスの提供及び効率的な運営方法を確立することを目的に鳥取県総合芸術文化祭実行委員会（以下「実行委員会」という。）に鳥取県総合芸術文化祭評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(委員会の任務)

第2条 委員会の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価実施に関する基本方針の決定
- (2) 評価項目の作成及び調整
- (3) 評価の取りまとめ（総合評価と提言）

(委員の任務)

第3条 委員は、作品を鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。

(組織)

第4条 委員会は、実行委員会及びその内部組織に属さない県内有識者のうちから実行委員会会長が委嘱する委員をもって構成する。

2 委員は15名以内とする。

(座長)

第5条 委員会に座長を置く。

- 2 座長は委員の中から互選する。
- 3 座長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 座長に事故あるときは、あらかじめ座長が指名する委員が、その職務を代理する。

(任期)

第6条 委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任委員の残任期間とする。

(会議)

第7条 委員会の会議は、必要に応じ座長が招集し、その議長となる。

- 2 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 3 会議には、座長が必要があると認めたときは、委員以外の者に出席を求めることができる。
- 4 会議は、公開とする。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、実行委員会事務局において処理する。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、座長が会長の承認を得て別に定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成16年9月28日から施行する。

(経過措置)

委員会の設立当初の委員の任期は、第6条の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

(経過措置)

平成17年度の委員会の委員の任期は第6条の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

平成23年度

第9回とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）評価報告書

平成24年3月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220

鳥取県総合芸術文化祭評価委員会事務局（鳥取県文化観光局文化政策課内）

電話 0857-26-7234

ファクシミリ 0857-26-8108

ホームページ <http://www.artsfriend.com/toriart/>